

茨城県行方郡玉造町

# 井上貝塚

発掘調査報告書

1998年3月

玉造町遺跡調査会  
玉造町教育委員会

# 序

玉造町は、茨城県の南東部に位置し、霞ヶ浦に臨む、温暖な気候と豊かな自然の環境に恵まれ、私たちの郷土は古くより人々の生活の場となり、そこには幾多の歴史が残されています。現在でもその人々の生活の痕跡として、貝塚や古墳・城館跡等の遺跡が町内に数多く点在しております。

しかしながら、これらの貴重な遺産である埋蔵文化財も、近年の開発によってその保護・保存が非常に困難となってきています。

井上地方においては、昭和59年度には町道124号線の拡幅工事に伴い『井上古墳群第4号墳』、平成6年度に県道山田玉造線歩道新設工事に伴い『井上廃寺跡』の発掘調査による記録保存や、平成元年度に『井上長者跡』確認調査がおこなわれております。

さらに今回の『井上貝塚』も町道369号線の拡幅工事に伴い発掘調査による記録保存の止む無きに至りました。その貴重な文化遺産を失うことは誠に残念であります。

しかしその反面、この報告書が郷土をより深く知る上での貴重な学術資料として、広く一般の方々にもご活用いただければ、意義深いことと捉えることができます。

結びに、この発掘調査に当たりまして、玉造町役場のご理解とご協力を賜りましたこと厚く御礼を申し上げます。

また、ご指導賜りました茨城県教育庁文化課をはじめ、発掘調査を担当頂きました汀安衛先生並びに特段のご協力を賜りました地元関係者の方々に心から厚く感謝申し上げます、ご挨拶といたします。

平成10年3月

玉造町遺跡調査会長  
玉造町教育委員会教育長

海老澤 幸 雄

## 凡 例

- 1 本報告書は、茨城県行方郡玉造町大字井上2122番地他に所在する井上貝塚の発掘調査報告書である。
- 1 本貝塚の調査は、町道拡幅に伴う掘削部分のみの調査であり、現況道路下は調査対象にはない。既存道路で破壊、又は完全に50cm～4m下に位置している。
- 1 本貝塚の調査は、平成9年9月29日から同10月27日までに現場作業を行い、11月から整理作業を進め一部魚、鳥の分析を残し平成10年3月31日に終了した。魚、鳥骨については次年度に報告する。
- 1 本貝塚の調査は、鹿行文化研究所の汀安衛が担当した。  
整理作業は、横田泰隆、戸島和子、佐々木トミ子、新聞豊子、山本茜、前田京子、飯岡忠孝が行った。貝の水洗い・選別・図表等は、横田泰隆、山本茜、新聞豊子、佐々木トミ子、飯岡忠孝が行い、戸島和子が土器復元・実測、トレース、図版作成を前田京子が土器復元、見洗い、注記、遺物台帳作成を行った。汀はそれぞれの総括を行い、写真撮影、原稿の執筆をした。
- 1 本報告書の縮図は、遺構は原則として1/10、1/20、1/30とし遺物は、原則として1/3とした。水糸レベルは原則として図中に表示した。
- 1 本調査にあたり次の方々にご協力を受けた。記して感謝の意を表したい（敬称略）  
横田泰隆、戸島和子、佐々木トミ子、前田京子、新聞豊子、山本茜、飯岡忠孝、大川義久、菅谷益尚、清宮久（鹿行文化文化研究所）  
野原フミ、郡司敏子、郡司チエ、郡司美津子、郡司とく子、郡司みつる、高野敏子、高野正恵（地元調査協力者）調査にさいし歴史館斉藤弘道氏に御指導を受けた。
- 1 地主郡司 敏子氏には水道、便所、テント設置、調査区の延長等特別にご協力を受けた。記して感謝の意を表したい。
- 1 調査及び報告書作成に当たっては茨城県教育庁文化課、鹿行教育事務所、玉造町建設課地元区長さんほか各方面の方々にご指導、ご協力を賜った。末尾ながら記して感謝の意を表したい。

# 目 次

序 文	
例 言	
目 次	1
挿 図 目 次	1
表 目 次	1
写真図版目次	4
第 1 節 遺跡の位置と環境	5
第 2 節 調査に至る経過と調査日誌	5
第 3 節 調査の概要	7
第 4 節 調査の方法	9
1 調査の区域と方法	10
2 貝層の層序	10
第 5 節 土器、土製品、石器、石製品	13
第 6 節 貝類遺体	40
第 7 節 牙、貝製品	45
1 微小貝類	72
結 語	74



# 挿 図 目 次

第1図	貝塚周辺の遺跡と地形	6
第2図	調査区及び地形	8
第3図	トレンチ部分(道路拡幅部分)土層、貝層	9
第4図	B-1、C-1、C-2、D-1区土層図	11
第5図	各グリット土層(貝層)	12
第6図	トレンチ部分、土層、貝層(道路上)	13
第7図	B-1区、1、3、4層出土遺物実測、拓影図	14
第8図	C-1区、2、3層出土遺物実測、拓影図	15
第9図	C-1区3層出土遺物拓影、実測図	16
第10図	C-1区3層、16~22	17
第11図	C-1区3層、23~29	18
第12図	C-1区3層、30~42	19
第13図	C-1区3層、43~50、4層51~53	20
第14図	C-1区4層、54~59、5層60~62、6層63	22
第15図	C-2区3層、1~2、4層3~5	23
第16図	C-2区3層6~8、4層10	24
第17図	D-1区1層、1~2層(瓦)	24
第18図	D-1区3層、1~6	25
第19図	D-1区3層、7~10	26
第20図	D-1区3層、11~20	27
第21図	D-1区3層、15~16、21~23、4層17	28
第22図	E-1区1層、1、2、5、2層3、11、3層4、10	30
第23図	E-1区3層、12~17	31
第24図	E-1区3層、18~22	32
第25図	E'-1区3層1	33
第26図	E'-1区1層1、2層1、3層2、F-1区、2層4、6、3層5	34
第27図	F-1区2層8、3層7、9	35
第28図	トレンチ1層、1、2、2層3~8	36
第29図	B-1区トレンチ1層1、2	37
第30図	各G出土土器片鏝、土製品	38
第31図	各G出土土器	39
第32図	各G出土、貝輪、骨製品	46

# 表 目 次

第1表	各G出土石器片錘、土製品一覧表	38
第2表	各G出土石器一覧表	38
第3表	貝の生息環境	43
第4表	B-1区3層出土貝類	48
第5表	B-1区4層出土貝類	49
第6表	B-1区5層出土貝類	50
第7表	C-1区1層出土貝類	51
第8表	C-1区2層出土貝類	52
第9表	C-1区3層出土貝類	53
第10表	C-1区4層出土貝類	54
第11表	C-1区5層出土貝類	55
第12表	C-2区1層出土貝類	56
第13表	C-2区2層出土貝類	57
第14表	C-2区3層出土貝類	58
第15表	C-2区4層出土貝類	59
第16表	E-1区1層出土貝類	60
第17表	E-1区2層出土貝類	61
第18表	E-1区3層出土貝類	62
第19表	E-1区4層出土貝類	63
第20表	F-1区1層出土貝類	64
第21表	F-1区2層出土貝類	65
第22表	F-1区3層出土貝類	66
第23表	トレンチ区1層出土貝類	67
第24表	トレンチ区2層出土貝類	68
第25表	トレンチ区3層出土貝類	69
第26表	トレンチ区4層出土貝類	70
第27表	ハマグリの殻高と重さの分布傾向	71
第28表	抄 録	76

# 写真図版目次

PL-1	下方から見た調査区(上) 道路から見下ろした調査区(下) .....	77
PL-2	C-1区2層上面(上) C-1区貝層断面(中) 西側から見た貝層(下) .....	78
PL-3	C-1区3層土器、アカニシ(上) 同シカ骨(中左) C-1区と道路(中右) C-1区攪乱層(下左) C-1区4層土器と骨出土状態(下右) .....	79
PL-4	D-1区(上) E-1区3層土器と貝層(中) 同5層(下) .....	80
PL-5	F-1区1層(上) 同西側から(中) 同土器出土状態(下) .....	81
PL-6	F-1区貝層(右上方) F-1区貝層(中) 同シカ角、骨製品(下) .....	82
PL-7	F-1区5層土器と骨(上) F-1区貝層と土器(中) C-2区貝層調査(下) (下) 同貝層と下端、遺物出土状態(右) .....	83
PL-8	B-1区1, 3, 4層出土遺物(上) 注口土器E-1区3層(下) .....	84
PL-9	C-1区3層出土土器 .....	85
PL-10	C-1区3層出土土器 .....	86
PL-11	C-1区3層出土土器 .....	87
PL-12	C-1区3層出土土器 .....	88
PL-13	C-1区3層、C-1区4層、C-1区5層、C-1区6層出土土器 .....	89
PL-14	D-1区1~2層出土瓦、D-1区3層出土土器 .....	90
PL-15	D-1区3層出土土器 .....	91
PL-16	D-1区3層、4層出土土器 .....	92
PL-17	E-1区1層、2層、3層(C-1、E-1) .....	93
PL-18	E-1区3層(D-1) .....	94
PL-19	E-1区3層、E-1層、2層、3層、F-1区2層 .....	95
PL-20	トレンチ区1層2層 .....	96
PL-21	D-1区1層、F-1区1層、各G出土土器 .....	97
PL-22	貝輪、貝製品、牙籤、貝刃(上) 貝類(中)、土器片錘(下) .....	98
PL-23	イノシシ、貝輪、骨製品、歯、シカ角等 .....	99
PL-24	シカ骨、角、イノシシ .....	100

いずれの図版も縮尺不統一。

## 第1節 遺跡の位置と環境

本貝塚は、茨城県行方郡玉造町井上字2122番地他に位置する。貝塚の主体部分は道路下にあると推定される。貝塚は、井上神社の西側、霞ヶ浦から入り込む谷津の中程、舌状に台地に食い込む北向の斜面部に占地し推定半径60m、幅25mの半円形状に舌状先端部に形成されたと推定する。(調査が道路拡張部分のため)一部最奥部は、道路の南側に5～8m程伸びる可能性がある。

貝塚上部は標高30m前後、下端は20m前後でかなりの急斜面に形成を見る。一部は昭和50年代に道路工事で、一部は防災無線鉄塔工事の為欠失していたが貝塚の90%程は遺存していると推定された。

周辺には、南側500mには縄文時代中期から後期初頭の戸ノ内貝塚、東側300mには平安時代の井上廃寺、東側には井上神社が位置し古代から恵まれた歴史的環境にある。その他西側400mには井上古墳群、南側1kmには、岡部城跡、西北側には小貫館や名刹として知られる西進寺が位置する。さらに北側手賀地区には縄文時代中期の八幡平貝塚、手賀廃寺、手賀城跡等が存在し歴史的自然環境に恵まれた中に本貝塚は位置している。

## 第2節 調査に至る経緯と調査日誌

### 1. 調査に至る経緯

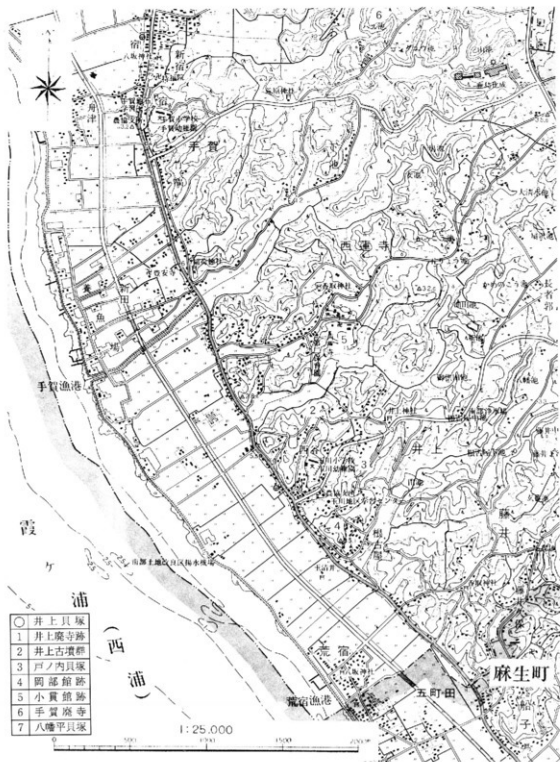
玉造町は、主要基幹道路である国道355号線と行方台地を走る主要地方道水戸神栖線が縦断し、これらを国道354号線、県道山田毛造線等の道路により町を縦断する形で接続している。その県道山田毛造線は井上神社付近から国道355線を結んでいる。町道369号線は生活関連道路として交通量も増加し住民要求も高いことから拡幅工事が計画された。

今回の調査地である井上貝塚(県番号1534)が所在しており、事業主体者玉造町長から平成8年8月28日付けで工事予定地内の埋蔵文化財の所在の有無および取り扱いについて玉造町教育委員会に照会が出された。

これを受けて玉造町教育委員会は、工事予定地及び周辺の踏査を行った結果、周知の遺跡である旨、平成8年9月11日付けで回答した。

このため玉造町教育委員会と玉造町役場建設課で文化財保護・保存に関する事前協議を実施した。この結果を受け茨城県教育庁文化課の指導の下、記録保存の措置を講ずることとなった。

発掘調査に当たっては、鹿行文化研究所の汀安衛先生の協力を得て、1997年9月29日から10月31日の期間で調査を実施することになった。



第1図 貝塚周辺の遺跡と地形

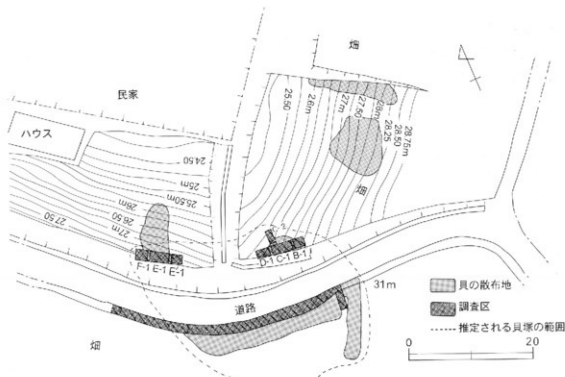
## 2. 調査日誌

本調査は平成9年9月29日から開始し同年10月27日に終了した。以下調査日誌をもとに簡単に経過を述べる。

- 29日 草刈り、地形図、テント設営、写真撮影。
- 9月30日 地形図作成、区割りしB区、C区から調査開始。
- 10月1日 B区、C区1層は耕作土、2層からすべて2回にわけ篩使用、2種類。
- 10月2日 B区は3層え、C区も3層え、町立玉川小4、5、6年生見学。
- 10月3日 共にハマグリ主体でアカニシ、サルボウ少量含む。
- 10月6日 道路肩部分の整理、B、C区調査3層あと少し。
- 10月7日 E区、F区調査開始、耕作土1層、B、C区は4層へ。
- 10月8日 B、C区は4層、破砕貝層、E、F区2層調査。
- 10月9日 B、C区5層へ、土が多い混土貝層、E、F区3層へ。
- 10月11日 B区はほぼ終了。C区5層、F区は3層終了、4層へ、E区3層厚い。
- 10月13日 C区は5層終了。6層へ。F区は4層終了。5層の混土層。
- 10月14日 C区6層へ。C2区調査攪乱多し、E、F区はほぼ終了。
- 10月15日 D区畑の上東側にトレンチ設定、工事の関係で調査する事になる。
- 10月16日 上部畑F区トレンチ調査開始。上部畑B区トレンチ調査開始。
- 10月17日 E'区調査開始。D区馬骨出土攪乱部、層序E区同様
- 10月18日 東Cトレンチ、上Fトレンチ調査。C2区調査終了。
- 10月20日 BとCの間ベルト調査、上各トレンチ調査。
- 10月21日 CとDの間ベルト調査、上各トレンチ調査。
- 10月22日 E'調査はほぼ終了。EとFの間ベルト調査。上各トレンチ調査。
- 10月23日 CとDの間ベルト、EとFの間ベルト、上各トレンチ調査
- 10月24日 E'とEの間ベルト、Dトレンチ、E調査終了。
- 10月25日 B、C、C2埋め戻し。上Eトレンチ調査。調査はほぼ終了。篩のみ。
- 10月27日 各区埋め戻し、貝殻運搬、道具、テントかたづけ。簡単に打ち上げを行い終了。

## 第3節 調査の概要

本貝塚の調査は、平成9年9月29日から開始し10月27日までの20日間道路拡張部の掘り込み部分及び上部のカット面を主とし調査を行った。下位は傾斜角度からコンクリートの打ち



第2図 調査区及び地形

込みのため第2図に示すとおり幅2.5m、長さ3mを1区とし掘削部のみ調査した為B区、C区、C2区、E区、F区の幅2.5m、長さ16m面積40㎡。その他貝塚の終末部分を把握するため2区をC区に設定し確認した。面積4㎡。その他上部畑東側にトレンチを設定した。

上部では、畑のへり1.5m程の幅の為貝塚の確認出来た部分は、B区、E区、E区、F区で特にC区、E区では良好な貝層が見られた。

貝層はB区から地形図のとおり西側及び北側に傾斜を示し5～7層に分けられ1層の大半は耕作擾乱で2層から貝層は生き、瓦、シジミ等が混入3層からは、純貝層でハマグリが大半を占め僅かにC区ではサルボウとアカニシの小ブロックが見られた。骨、土器は全体に少なく4層では貝の破砕が見られた。土器はE、F区に大型のものが見られ動物の遺存体はシカ、イノシシが圧倒的で魚類ではウナギが圧倒的でタイ、エイ、アジ、ヘビ等が見られ鳥類はカモが見られる。小動物も少量見られアナグマ、キツネ、テン等が主なものである。

本貝塚の形成時期は出土土器から堀ノ内式後半から開始され加曾利B式期に30～50cmを測る多量の純貝層（ハマグリ、80%）が見られた。一時期は、半ば加工場の役割をはたした時期が見られた。後半の加曾利B終末期は純貝層でハマグリは生育はかなり貧弱で4～10%前後が主体を占め前述の3層の8～16%の貝層とは歴然とした差が見られる。

貝の圧倒的多数を占めるものはハマグリで次にサルボウ、アカニシ、シオフキ、オキシジ

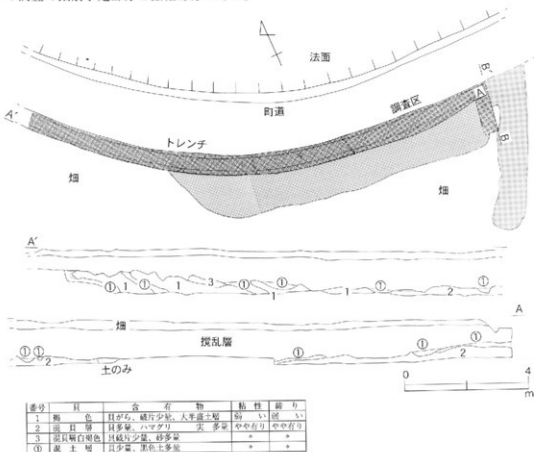
ミ、ウミニナ、ムシロガイ、カキ、ヤマトシジミが主なものであった。貝類の主体を占めるものは海産が95%を占めシジミを主体とした淡水系のものカワニナなどが極少量占める。

骨角器、貝製品はシカの骨を利用したヤス、貝輪、貝刃、ペンダント等の加工製品が出土している。その他、多量の魚骨が検出された。これらはエイ、ウナギ、ボラ、タイ等が主体を占めるが今回の報告書では多方面から整理が困難であるため次年度に譲り報告したい。

以上が調査の概要であり、以下、詳細は各節で述べる。

## 第4節 調査の方法

本調査は前述のとおり町道拡幅に伴う調査である。井上神社西側の町道がゆるく半円状に南側にカーブを示し道幅も狭く直線的に改良、拡幅に伴いコンクリートの打ち込み部分のみの調査で掘削予定部分と拡幅部分である。



第3図 トレンチ部分（道路拡幅部分）土層・貝層



## 1. 調査区域と方法 (第2図、第3図)

第2図に示すとおり霞ヶ浦から入り込む谷津の止まりに占地しており貝塚は、大きく3地点に分けられる。1地区は調査区の北側に位置し斜面に散布する。2地点が本調査を行った地区で、さらに西側の斜面部の山林中に存在する。

調査は、道路法面下端の工事で掘削部分を任意に東側からB-1、C-1、D-1、E'-1、E-1、F-1とグリットを設定し、間部分はかなりの高低差と工事が行われて貝塚の遺存部分は工事にさいし問題はないと考えた。調査面積は42.5㎡で道路部分は56.25㎡、トレンチ部分が8㎡で都合総面積106.75㎡である。貝塚全体の0.5%前後と推察する。まさに針の穴から象を見るに等しいが本貝塚の範囲、及び時期は推定出来た。

貝層については、貝種の変化、及び状態から耕作攪乱層、破碎貝層、混貝層、純貝層、混土貝層、黒褐色層、埋土層、攪乱層、シジミ主体層等に分け、それぞれ8mm、5mm、1、2mmの篩を用い3回に分けて分類した。貝は海水で種初用袋を用い水洗いし更に真水で洗浄し、箱に入れ仕分けしたが多量の為今回の報告書にはすべては間に合わなかった。

## 2. 貝塚の層序 (第4図、第5図)

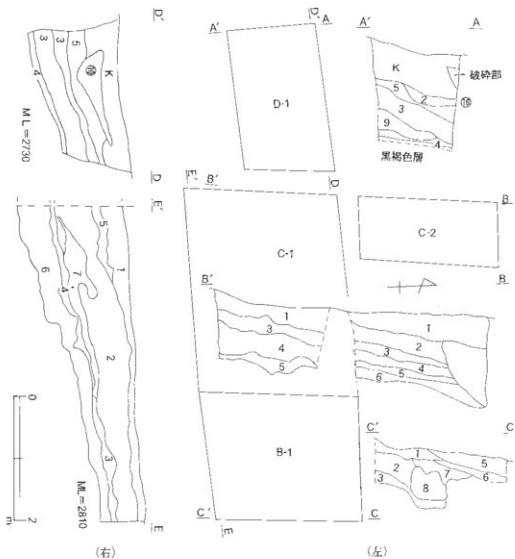
全体的に調査区域が貝塚の下端に近い部分のため層序は止まりに近い状態である。各区とも東西方向では緩く西側に傾斜を示し畑の攪乱層、2層の純貝層、3層は混貝で破碎層、4層は、黒褐色層で少量の貝を含み破碎貝層、5層は破碎貝層、6層は、ハマグリ純貝層。

東側では攪乱層が見られかなり層序は乱れる。5、6層の新しいシジミを主体とした層が見られる。7、8層はやや古い時期の攪乱層、破碎されたハマグリが混入する。

ほぼ攪乱されない層序は単純で地形に添ってきれいに堆積しているD-1区で北側の層ではやはりマシジミを主体とした⑩層が存在する。

西側のE-F区では貝層は端部に近く、この部分からは1m前後で貝塚は終了すると推定される。かなり傾斜面に形成された地区で畑のかくらん層の下に道路拡幅以前の畑の層が見られる。西側のE'-1では攪乱層が90cm程の厚さで堆積し東側のB、C、D区とはかなりの差異が見られる。1層は破碎された混貝層で極一部のブロック状、2層は、混貝層でハマグリを多量に含む。3層は、破碎層でかなり破片化している。貝類は少なく黒色土層が大半を占める。4層は、黒色土層で極少量の貝殻を含む。大部分は土。以下は砂質の白黄色の地山層。南北方向ではかなりの傾斜を示し、貝塚の範囲、貝層の終末が推察出来る。EGでは貝層の厚さは35cm、FGでは7cm、である。ほぼ西側の範囲はこの周辺で終わると考えらる。

下位に見られる貝の散布は終末部分の流れと推察される。ボーリング探査からも断定された。道路上の拡幅部分では、幅が狭く深さも限定され最高で道路上から60cm程しか下げなかつ

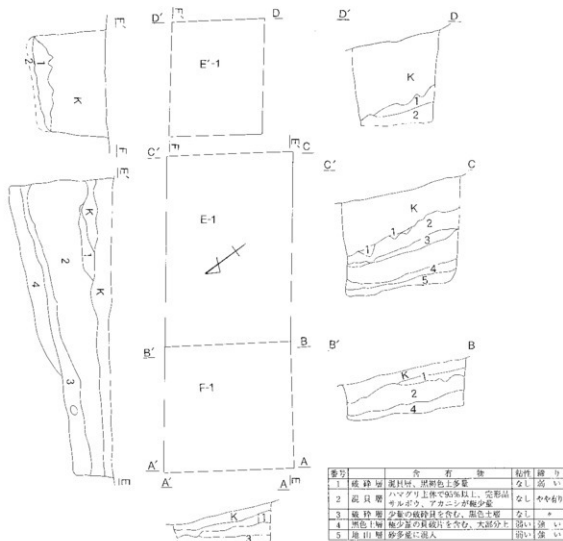


番号	層	含有物	粘性	締り	番号	層	含有物	粘性	締り
1	表土層	細砂質土 貝少量	弱	硬い	1	細の褐色土層	少量の貝殻片を含む、黒色	強い	強い
2	純貝層	ハマグリ主体	弱	やや有り	2	破砕貝層	畑の耕作か。	弱い	*
3	貝土層	破砕貝層、貝やや多量	*	*	3	崖土層	土多量、貝少量、黒褐色貝層上層の底部の埋土層	弱い	*
4	黒褐色層	破砕貝層有り。	強	やや有り	4	泥貝層	やや多量の貝で旧状を大半が保つ、一部破砕貝層が含まれる。黒色	弱い	やや有り
5	破砕貝層	貝多量、貝まじる	やや有り	やや有り	5	破砕貝層	少量の破砕貝層を持つ。多量、砂を少量含む	弱い	強い
6	泥土層	ハマグリ主体の粘り土が多い	*	*	6	黒褐色層	ほぼ砂質の貝層、地山層直前	弱い	やや有り
7	黒褐色層	土のみ土層	*	*	7	破砕貝層	1部砂を含む層	弱い	やや有り
8	泥土層	破砕貝層、多量	弱	やや有り					
9	破砕貝層	サルボウ主体層	弱	やや有り					
10	シジミ貝層	シジミ貝と泥、少量の貝を含む	弱	やや有り					

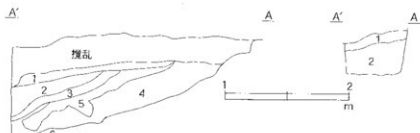
第4図 B-1、C-1、C-2、D-1

た。道路の工事に問題がない程度の範囲、道路使用に支障がない程度で調査した。畑の攪乱層以外には一部に貝層の検出出来ない部分も見られた。全体の1/3程である。貝塚上部の確認の為地主の了解をえて幅1m、長さ3.85m程確認のため調査を行った。しかし幅1mとの制約から安全性を考え1.5mの深さで断念した。この部分では畑の攪乱層はほぼ一定で50cm前後である。第3図に示すように東側で半円形の中になる。貝層は5層に分けられた。ここでは3層の混貝層が薄く見られる。かなりの斜面に本貝塚が形成された事がこの層位から推定できる。

以上が貝層堆積状態で本来の調査区から8㎡程面積をオーバーしてしまい時間、予算の向でかなり窮屈な整理であった。



第5図 各グリット土層(貝層)



番号	貝の混入率	含有物	粘性	締り	備考
1	貝少量	以前の層、貝殻さい	弱い	弱い	
2	貝多量	純貝層に近いハツリ主体	なし	ややあり	
3	混貝層	貝に砂粒が多い	弱い	やや有り	
4	混上層	上のみ少量の貝を含む	やや有り	やや有り	
5	純貝層	ハツリを主体とした貝層	なし	やや強い	あと20cm
6	以下2層	砂を混有り			上部は無魚土のみ

番号	貝の混入率	含有物	粘性	締り
1	混貝上層	貝、砂、黒色土多量	やや有り	やや有り
2	混貝土層	貝やや多量、黒色土少量	弱い	*

第6図 トレンチ部分、土層・貝層（道路上）

## 第5節 土器、土製品、石器

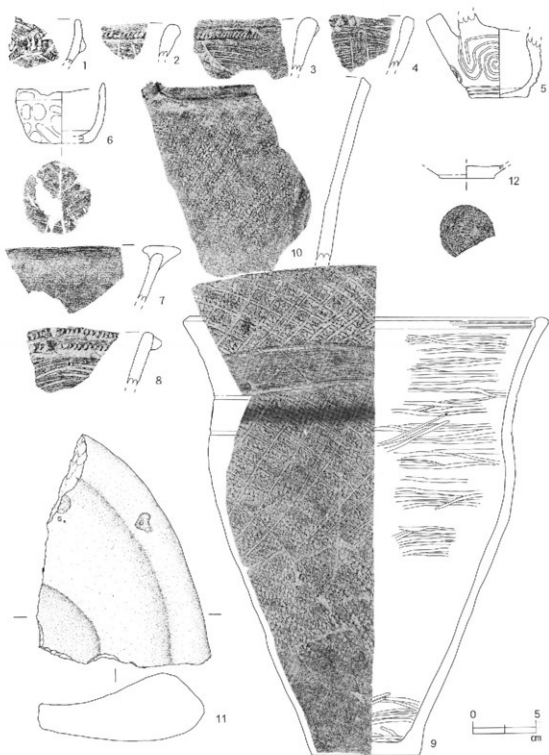
### 1. 土器

本調査では完形品は皆無で接合により90%以上に復元されたものが15点ほど存在するほかはすべて半分以下、又は破片でその総数はおよそ50,000点であった。

底部、胴部、口縁部との比較は底部が全体の1/8で少ない。土器は復元した物については大部分図示した。時期は縄文時代中期加曾利EIV式から始まり？堀ノ内1式から安行1式迄の期間に営まれた貝塚と出土した土器から推察できる。

#### ○B1区（第7図）

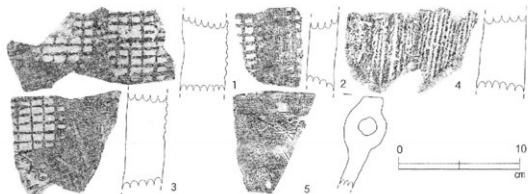
本グリットではまとまった遺物は、出土していない。グリット自体が貝塚の東端に位置すると推察できる。これは貝層からも推察出来る。従って土器自体の出土量は少なく図示出来る遺物も少ない。1、4、5は1層出土の土器で4は安行1式の粗製の深鉢型土器口縁部で縦位のスリットの左右には細かな沈線が横走する。5は、小型の注口土器で把手部分が欠失する。底部には3本の沈線が回り胴部は、左回転の渦巻きが見られる。加曾利B1式。1は安行1式の精製土器頸部。口縁部は薄い。2、4は口縁部が極端に肥厚する安行2式の口縁部で口縁部に細い粘土紐を貼付し刻み目を施す。6～11は、3層出土の土器で6は小型の鉢状土器で粗製、縄文期。7は、外面磨消の上器で口縁部内外に庇状に貼付する。内側に沈線を認めない上器。8は、口縁部が弱い波状を呈する形態で2条の刻を施し下位は沈線が粗雑に横走する。弱い頂部には瘤状の凸部が見られる。7、10は頸部が弱く括れ口縁部内側に一条の沈線が回り頸部には沈線区画の磨消部が巡る。胴部、口縁部と共に地紋の上に格子状沈線を配する。堀ノ内式末。9は、口縁部に幅の狭い磨消部が回り弱い波状を呈する部分には八の字の摘み上げた頂部を持つ加曾利EIV式の土器である。11は、摺り石の一部で全体の1/3程。12は、底部に回転糸きり痕をもつカワケで平安時代以降と推察される。全体的に上部は攪乱が多い。



第7图 B-1区、1·3·4層出土遺物実測、拓影図

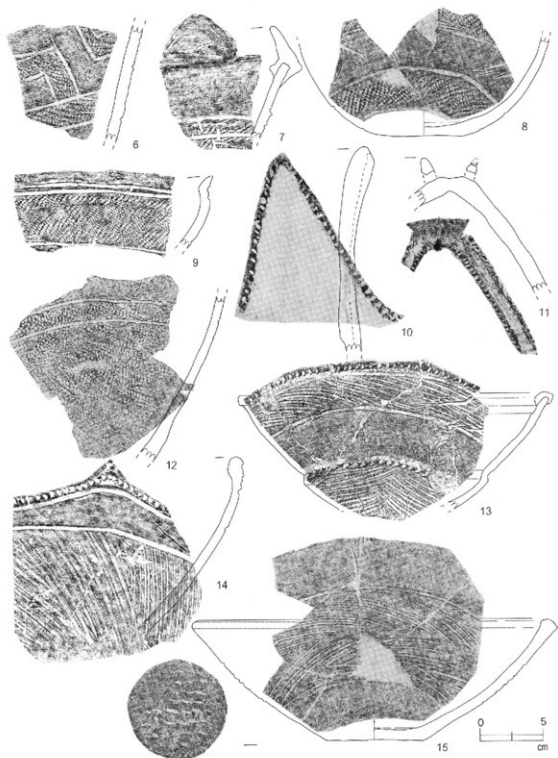
○C-1区 (第8図、第9図、第10図、第11図、第12図、第13図、第14図)

本グリットからは瓦が6片ほど出上している。図示した1～4は格子状の叩きを持つものと撚り糸状圧痕をもつ4が見られ裏側はナデている。いずれも厚めで2.5～3.5。を計り平瓦の一部と推察される。4は4cmと厚く。5は、内耳土器吊手の部分で形態からは江戸時代前半ごろの土鍋である。

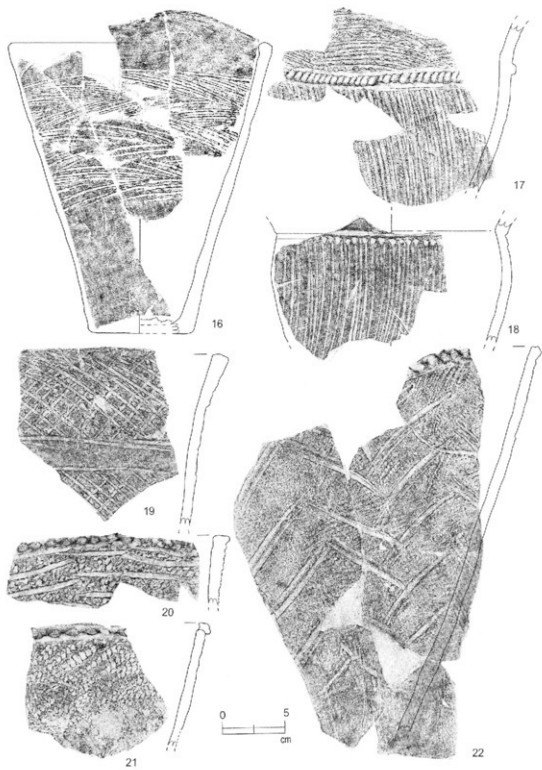


第8図C-1区2・3層出土遺物実測、拓影図

9図の6～11は、後期の土器群で沈線区画で磨消、縄文を充填胴部、7、9、12は二重の沈線を巡らし7、8は口縁部磨消下部はLRの縄を施す。10図16～19は沈線を横走、縦位、格子状に施文し16は波状口縁で磨消している内側に沈線が1条巡る深鉢で底部から外反しながら直線的に移行する。17、18は頸部の弱くくびれる形態で括れは、弱くこの部分に17は粘土紐を貼付し爪形紋を施す。この粘土紐を境に頸部は沈線が横走、胴部は三角形条刺突の下に縦位の沈線を施す。19は、単節の粗い縄文の上に沈線で格子状モチーフをもち括れにはやや幅広の磨消部が沈線によって区画されている。22は、植物性の用具で鋸歯状モチーフをもつ。20、21は、頸部に粘土紐を貼付、指頭により押圧を加える。口縁部まで直線的に開き、波状を呈する。11図24、25は沈線を斜めに粗雑に施文、頸部の括れは弱く、沈線間に磨消部をもつ7は幅の狭い磨消で(く)の字状モチーフ一群の土器群、23も同様であるが格子状で19の一群。28は、円筒形の底部で皿を載せた様な台付き鉢で胴部は磨消。頸部は粗雑な横位の沈線。本類は遺存率は良い。加曾利B2式。29は、紐線土器で頸部に弱い括れをもつ。頸部状は横位、胴部は斜めに粗雑な沈線を施す。11図23は前述の土器よりや大型の紐線土器。31は台付き土器で台部は磨消し坏部は粗雑な横位の沈線を施す。内面に四条の沈線、外面磨消。34～42は口縁部に紐線を貼付し指頭押圧を加える。地紋は、単節縄文の上に沈線を施す。口縁部が若干肥厚する35、36があり紐線は貼付していない粗製土器。40は顕著な波状突起部で2条の紐線が見られる口縁部は、粗雑な沈線が施されている。

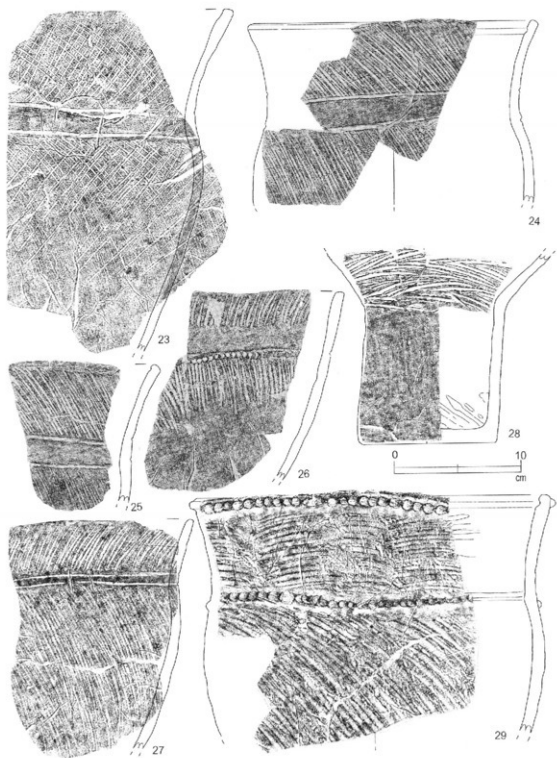


第9图 C-1区3层出土遗物实测、拓影图

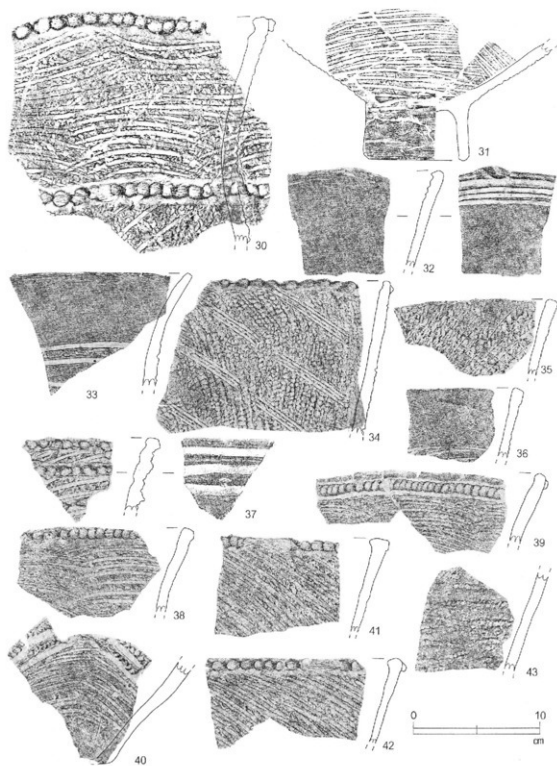


第10图 C-1区3層16~22

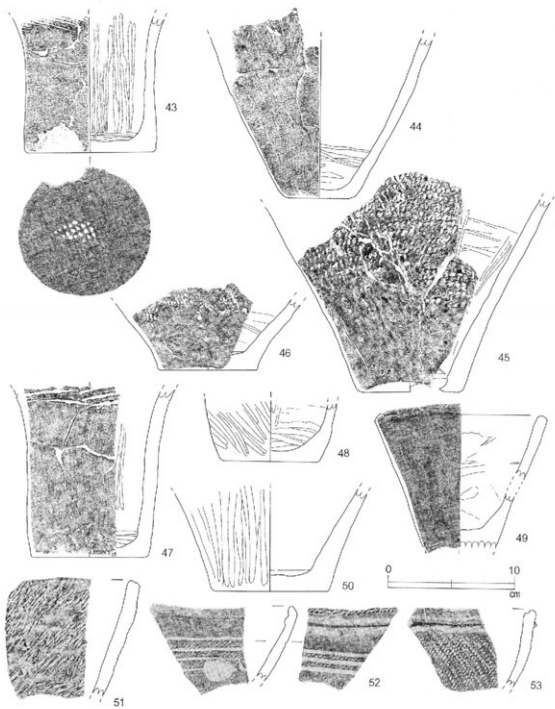




第11圖 C-1区3層23~29



第12图 C-1区3層30~42



第13图 C-1区3層43~50、4層51~53、

13図はC-1の3層、4層の出土上器で51-53を除きいずれも底部である。台付き深鉢形態の43、47はいずれも僅かに押走する沈線がのぞく。48も同様か磨消は顕著。44、45、46、50は安定した平底で胴部は外反しながら立ち上がる深鉢で疎らな多方面の異節の縄文が施文されている。50はやや粗雑な磨消。51は、附加状の撚り糸を全面に施す。52は、内外に沈線間に縄文を充填している精製上器。53は加曾利E式の口縁部で口縁部に微隆起が有り口唇部は磨消している。

14図62には3段の接合部分がある。他は54-59が4層。60-62は5層出土。63は6層出土。59、60、62は疎らな復節の縄が見られる。59は3条の細かい紐線が貼付され内側には太めの沈線が4条施されている。60は2条の紐線で区画し間を同様に四角に区画し更に内部を三角形に区画する。モチーフ的にめずらしい文様を構成している頸部は斜めの沈線。63は、大型の浅鉢で鋸歯状の沈線が磨消された胴部に施されている。口縁部は直立気味で口縁部は沈線状、56-58は底部でやや外反状で堀ノ内式の底部か？。61は口縁部の突起部で口縁部に沈線が巡る。本図は堀ノ内2式末の土器である。

#### ○C2区 (第15図、第16図)

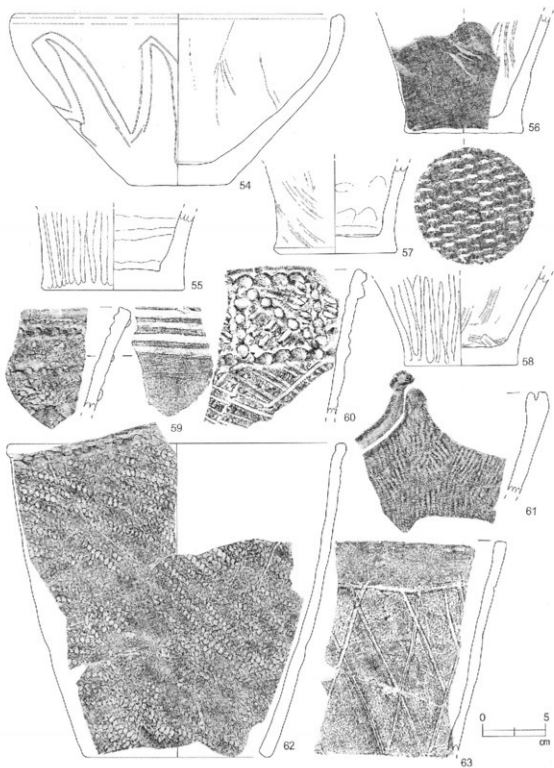
本土器群は貝塚の終末を押さえる為に設定したもので道路拡張とは関係はない。いずれも頸部が弱く括れる形態の深鉢で1は頸部下端に紐線で区画している。頸部には縦位のスリットが見られ加曾利B3式。2は疎らかな縄文の上に沈線が交互に施され口縁部には紐線が貼付され沈線を幾何学的に施す。口縁部は弱い波状を呈する。3は、頸部と胴部の間に紐線を貼付し文様帯を区画し口縁部の紐線と共に押圧を加える。地紋は縄文でその上に沈線を施す。1は2、3、4層の出土土器が接合関係にある。1、2は3層、3、4は4層。加曾利B式。5は小型の深鉢で頸部は強く括れる。口縁部に2条の沈線が巡り器面内外に沈線を施す。頸部、胴部を頂点として(く)り字状の沈線が施されている。加曾利B式。3層、4層出土。2、3、4の口縁部は弱い波状を呈する。

第16図の6、8は3層、10は4層出土。6は加曾利B式深鉢の典型的タイプ、口縁部は欠失7、8は隆帯にLRの単節の縄を施す。沈線区間の内は縄を充填。堀ノ内式末。9-12は沈線間を米粒状列点紋を施す。11は胴部でやや長めの施文。12は胴部。線区画で内部を磨消、10は波状口縁部から2条の沈線を垂下その間に米粒状刺突を施す。称名寺式

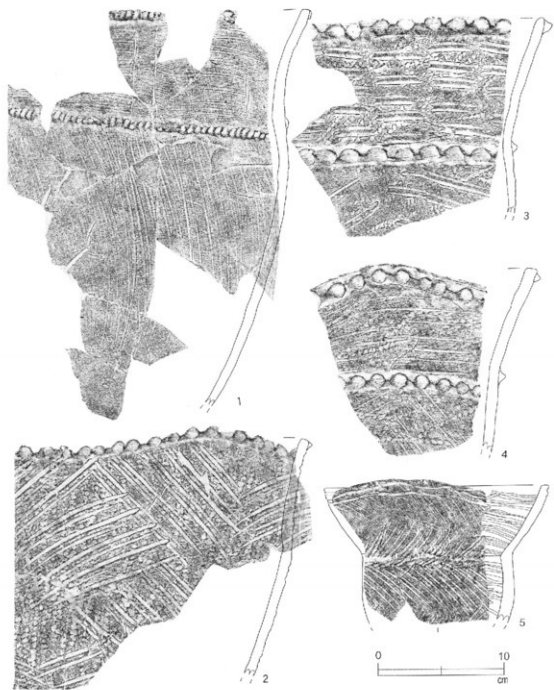
#### ○D1区 (第17図、第18図、第19図、第20図)

17図は、1層及び2層出土の瓦で小破片であるが平瓦の一部と考えられ3cm前後とかなり厚い。表面は格子状の4×11、44単位の叩きが見られる。2は裏面に布目痕が残る。その他はナデている。

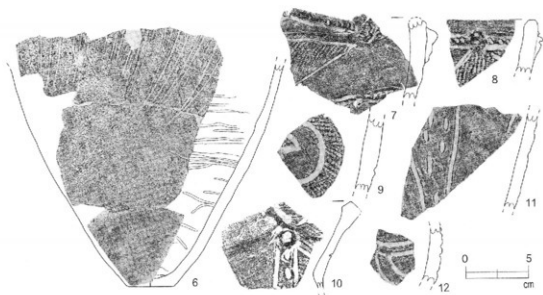
18図1-13、(20図)は底部が小さく、頸部が弱く括れる加曾利B式に伴う粗製土器で紐



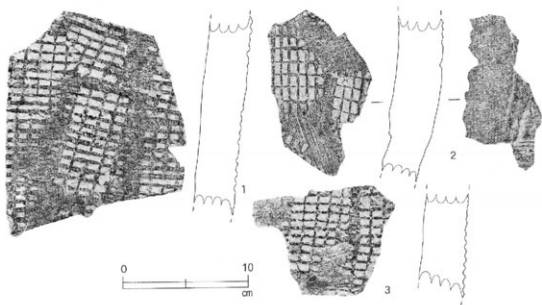
第14图 C-1区、4層54-59、5層60-62、6層63



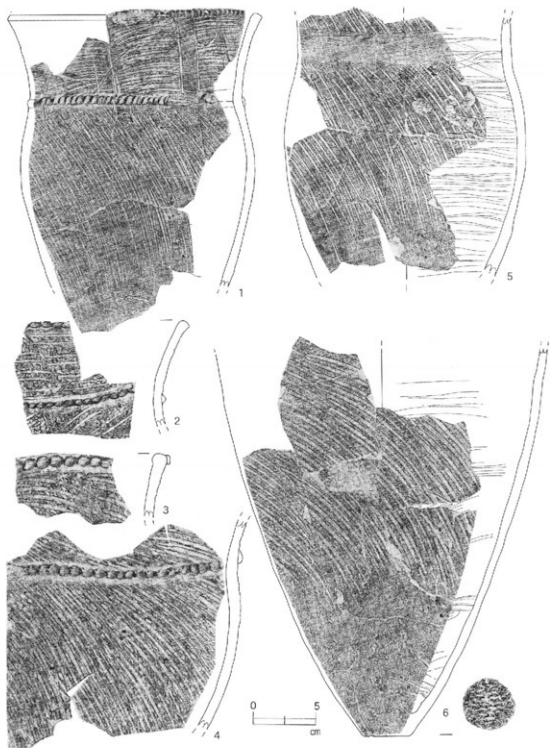
第15图 C-2区、3层1~2、4层3~5



第16図 C-2区3層6~8、4層10

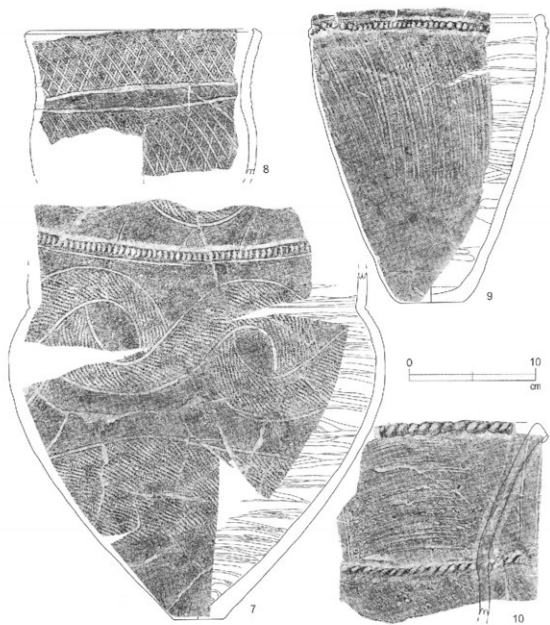


第17図 D-1区1~2層(瓦)

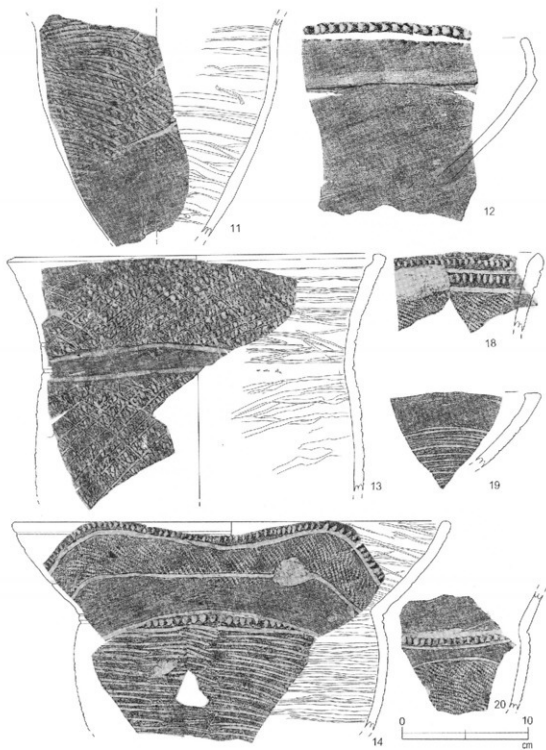


第18图 D-1区3層1~6

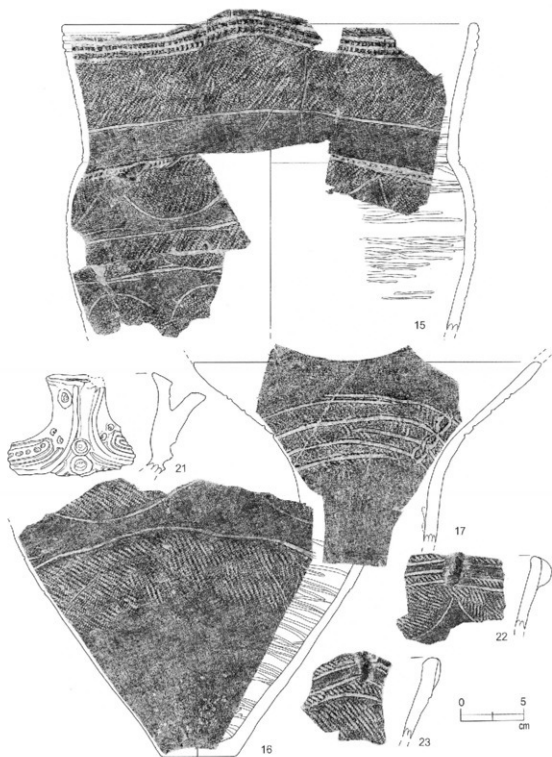




第19图 D-1区3層7~10



第20图 D-1区3層11~20



第21図 D-1区3層15~16 21~23、4層17

線を口縁部、頸部に1条づつ貼付、粗いLRの縄の上に弧状に沈線を配する深鉢。8, 13は頸部に沈線区画の磨消部をもち格子状紋を施す。9は口縁部が弱く内傾し、紐線を1条配し、口唇部は磨消、胴部は斜めに配する。10は前述の形態。7は、曾谷式で頸部の括れはやや強く、括れ部分に幅の狭い二条の沈線が巡りその間に刻み目を施す。胴部、口頸部はS字状の沈線区画のLRの縄文が充鎮されている。本例は破片では100片程見られたが器形の窺えるものは少ない。器形的には加曾利B式に近い。20図14迄は3層出土土器で11は、前類の粗製土器13も同様な頸部の弱く括れる深鉢で頸部胴部の間に沈線区画の磨消部が巡る口縁部内側に沈線が一条巡る。19は浅鉢の頸部破片で頸部に沈線が巡り口縁部内部に沈線が一条巡る。12は浅鉢の大型の破片で頸部に沈線が巡り口唇部は内傾し口唇部に三角形の刺突を施す。内側に弱い沈線が巡る。18は加曾利B式で口縁部に二条の沈線を施し間に米粒状の刻み目を施す。19は、浅鉢で口縁部磨消胴部に粗雑な沈線が疎らに施文。20は曾谷式の頸部。14は加曾利3B。

21図15, 16, 22, 23は3層、17, 21は4層出土。15, 16は同一個体の可能性あり。曾谷式の口縁部と胴部。17は加曾利B式の精製土器21~23は堀ノ内式口縁部に縦長の瘤を貼付。口縁部の沈線区画内に縄文を充鎮する。

#### ○E1区（第22図、第23図、第24図）

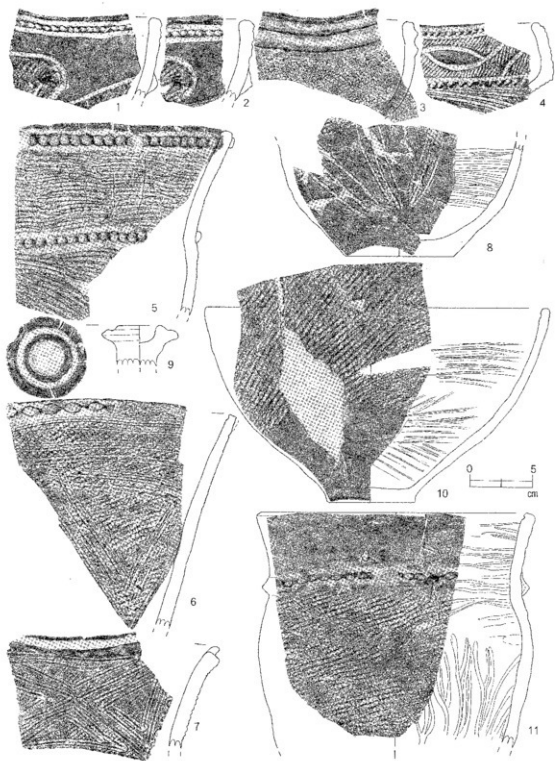
本地区は調査区の西側端で貝塚の端部にあたる。1, 2, 5は1層、3は2層、4~26は3層、27~30は4層出土。1, 2は口縁部に押圧を加え、沈線区画の内側に縄文を充鎮、小突起をもつ同一個体で称名寺式。4は口縁部が強く内傾する加曾利B式の精製土器。紐線をもつ5, 6, 11, 13, 18, 20, 22, 23, 26, 27と口縁部に磨消部をもつ7, 11, 13, 14, 15, 16, 18, 19~30がある。胴部文様帯は三角形モチーフ沈線で施すもの6, 7, 18, 19, 24。沈線のみ15がある。口縁部に山形状突起の15や円形状モチーフをもつ28がある。その他幅広い磨消部をもつ29, 30があり太い沈線と構状工具で沈線を施文する。6, 7, 10, 11は堀ノ内式。

その他、鉢状器形の8がある。称名寺2式。10は胴部と底部でRLの縄のみ。11は口縁部の突起部で円形、堀ノ内式の一部。内側に沈線をもち単節の縄の12。庇状に内側に折り波状18~22は堀ノ内式口縁部をもつ14もある。13は、浅鉢で磨消部に紐線を貼付し縄を転がすものも見られる。

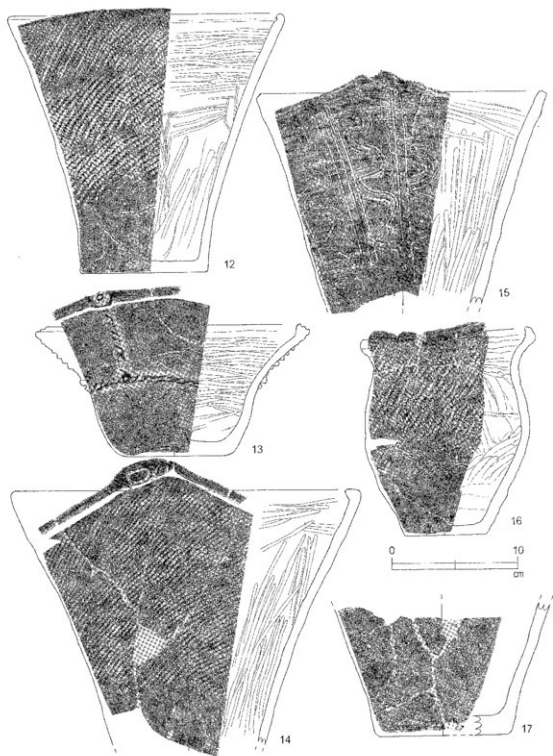
#### ○E'1区（第25図、第26図）

本調査区は、工事予定図面を確認してからの調査区で3層純貝層から出土した注口土器で注口部を欠失、前面には方形区画が二重、後には三重に施し胴部には渦巻きが左巻きに三箇所施文。口縁部には前後に渦巻きを上向きに配する。

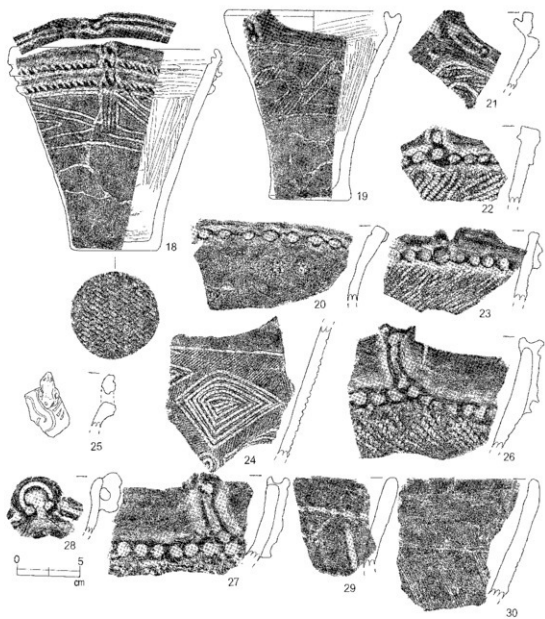
27図1, 2がE'区出土土器で1は、弱く括れる頸部に磨消部をもつ口縁部は縦、胴部は格子状に粗雑な沈線を施文。2は口唇部内側に一条の沈線、口縁部には幅の狭い磨消部をもつ、その下は磨消部の上に雑な沈線を施す。3層出土。



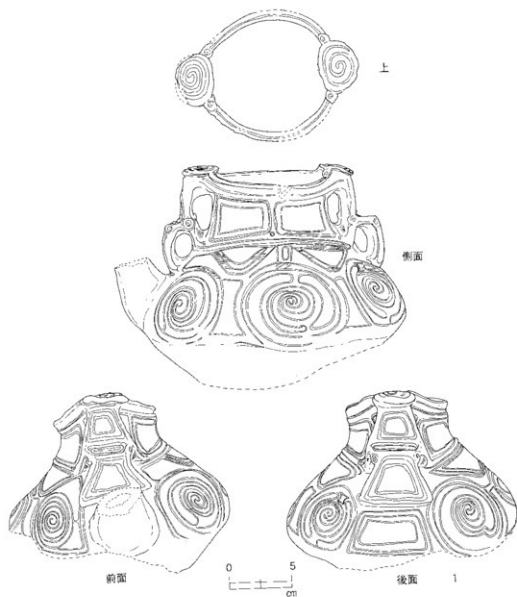
第22图 E-1区1层1、2、5 2层3、11 3层4、10



第23图 E-1区3层 12~17

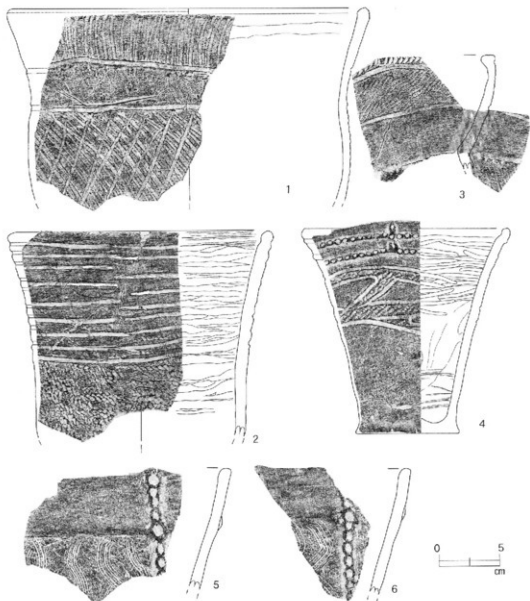


第24图 E-1区3层18~22



第25圖 E'-1区3層1

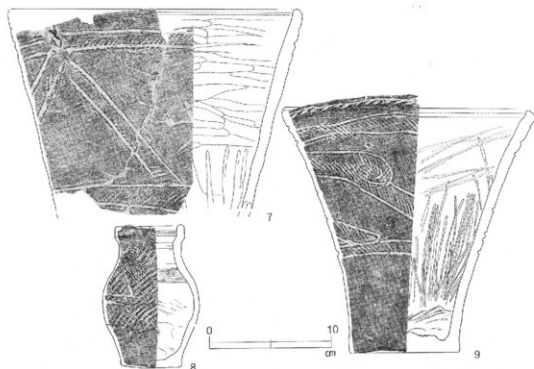




第26図 E'-1区 1層1、2層1、3層2、F-1区2層4、6、3層5

○F1区(第25図、第26図、第27図)

3は、口縁部内反し庇状に貼付、刻み目を施す。4は、磨消部の上に紐線紋が見られ押圧を加える。胴部は縄文を充鎮、直線的な器形。2層出土。5、6は口縁部で同一個体と推察され、幅の広い磨消をもつ。弱い波状の口縁部から紐線を垂下し押圧を加える。器形は底部から直線的に外反して立ち上がる深鉢。堀ノ内2式末葉。3層出土。27図7~9は前述同様な器形で。磨消部に沈線区画で三角形モチーフをもち縄文を充鎮する7と渦巻き状の文様構成の9が見られる。口縁部は刻み目、7は磨消で8の字状に貼付。8は、小型の壺で口縁部は丸く治め安定した底部をもつ。胴部、頸部はLRの縄が見られる。1、2は加曾利B式。



第27図 F-1区2層8、 3層7、9

○トレンチ区 (第28図)

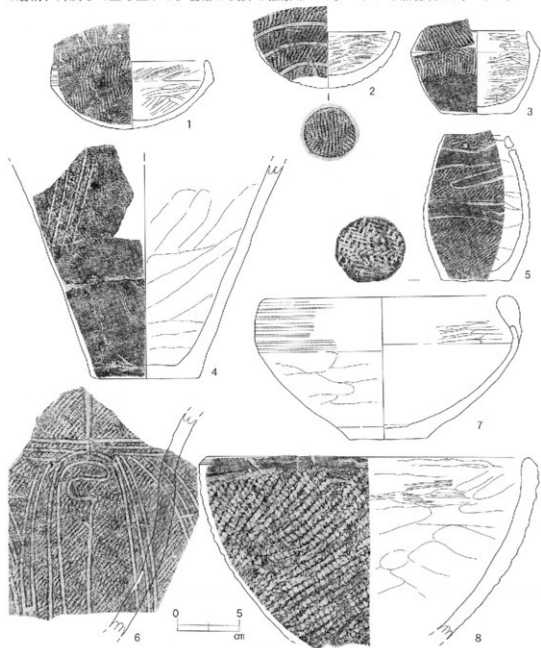
本トレンチは貝塚の範囲確認のため下端のC-2区に対する上部で地形、危険度、予算から1m幅で設定したもので4層迄調査した。貝塚の範囲は、道路部分から4m程で貝層は欠失、畑の攪乱部が50cm程存在する。本来の地形は、もっと低かったと推察され道路工事土止めの結果攪乱層が厚くなったと考えられる。以下各層出土の土器について述べる。

1、2は、碗状器形で1は土師器坏に相似し口縁部は短く内傾し口唇部は丸く収め底部は丸みをもつ。胴部は、LRの細かい縄を配する。2も同様で体部は沈線が三条等間隔で巡る。底部にも縄が見られる。口唇部は水平にカットしたように平。いずれも1層出土。頸部に張りをもつ。4からは4層で3は、小型の鉢で短い口縁部は内傾肩部に獲状の沈線により文様を構成している。4は直線的に立ち上がる。6は、頸部が弱く括れる深鉢で地紋にLRの縄をもつ。5は一輪挿しの様な形態で縄文地に沈線を施し磨消している。7、8は、大型の浅鉢で口縁部は内傾、直立気味。7は口唇部に貼付し肥厚する。口頸部は磨消、8も幅は狭いが磨消し共に平縁。5は、曾谷式?。4、6、7、8は堀ノ内1、2式

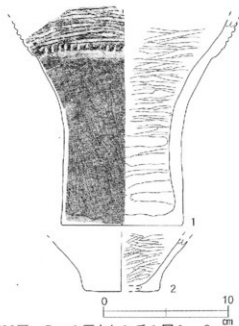
○B1区トレンチ (第29図)

本トレンチは便宜上命名したもので道路下のグリットに対比させ、東側からB、C、D、

E、Fとした。E'は湾曲するため欠とした。東側に前述のトレンチを設定、その西側からB、C、D、E、Fトレンチとし1.5mの幅で調査した。C部分は調査区域は2m前後。B区は、2層が確認された。D、E、F区は1層のみであった。1は、胴部は磨消、頸部に紙線を貼付し刻み目を施し横位の沈線を不規則に配する。底部は安定した平底。2は、底部のみで磨消、外反して立ち上がる。器形は浅鉢と推察される。いずれも加曾利B式である。



第28図 トレンチ1層1、2、 2層3~8



第29図 B-1区トレンチ1層1、2

#### 小 結

本貝塚の出土土器から貝塚を検証すれば加曾利E期末期からはじまり堀ノ内期に西側から貝塚の堆積が始まり次第に半円形に形成された。本貝塚の主体的時期は堀ノ内期末から加曾利B期、曾谷式、安行式で終末を迎える。ここで言う時期は全体の1%から推定。

中でも主体的、さも活発に生活が営まれた時期は加曾利B式の時期で純貝層出土の大半は本土器である。安行式に至っては土器は1割に充たない。堀ノ内式は1割前後である。僅かに称名寺式が少量見られる。出土した土器の8割は加曾利B式である。

これらの出土土器から分類すれば本貝塚は縄文中期末から始まり後期堀ノ内式にやや人口の増加が見られ加曾利B期に全盛を迎え大半の貝層は本時期に堆積され一時期貝の加工場の様相呈し活況がみなぎった時期と推察できる。それは3層の純貝層が証明し、出土した土器から時期は、縄文時代後期加曾利B式を中心とした時代が特定されよう。

土器では特別注目すべき事はないが堀ノ内式に完形品が見られた。その他土製品の出土が少なく、土偶は皆無、土器片鏟等も少ない。その他攪乱部から井ノ上廃寺のものと推察される瓦が20片程出土している。これらはいずれも貝塚の層を掘り込み存在しD区からは攪乱部(第2層)から馬が屈葬状で出土した。ほぼすべての骨が出土、遺存状態は余り良くない。

#### 土 製 品 (第30図)

本調査区では、土製品は極めて少なく出土した土器片鏟は13個体で最も重いもので28g、15~17gが最も多い。最低は6の5gである。いずれも長軸方向にきざみを入れており十字状はない。大半がB1区3層に集中し出土している。



第30図 各G出土土器片錘、土製品

土錘一覧表

番号	重さ	備考	出土区	層位	番号	重さ	備考	出土区	層位
1	31g	一部欠	B1	3層	8	15g	一部欠	C1	2層
2	15g	一部欠	B1	3層	9	30g	ほぼ完	C1	4層
3	16g	ほぼ完形	B1	3層	10	28g	ほぼ完	C1	5層
4	17g	一部欠	B1	3層	11	24g	ほぼ完	C1	6層
5	16g	一部欠	B1	3層	12	16g	ほぼ完	D1	1層
6	5g	半分欠失	B1	3層	13	32g	ほぼ完	E1	2層
7	19g	ほぼ完形	B1	3層	14	20g	円盤状	F1	3層

第1表 各G出土土器片錘、土製品、一覧表

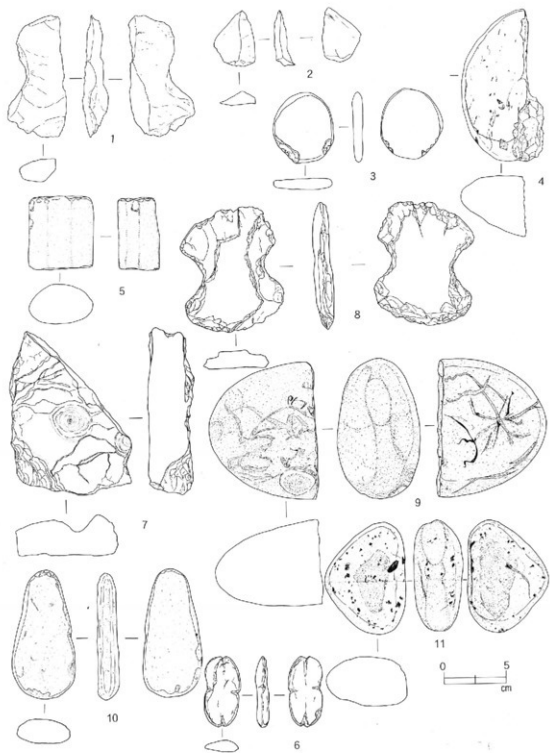
石器 (第32図)

本遺跡から石器の出土は少なく総数11であった。完形品は2点と少なく当域が石材供給地から遠いことが窺われる。分銅型が1点見られた。

石器一覧表

番号	重さ	形態	出土区	層位	石質	備考
1	59g	片面加工	C1	2層	安山岩	粗製剥片状
3	18g	剥片?	C1	2層	メノウ	フレイク状
3	37g	円形状	D1	1層	緑泥岩	円形で磨石状
4	45g	脩製石器	D1	1層	ク	脩製で半欠
5	165g	石棒状	E1	3層	砂岩	石棒の一部か?
6	45g	石錘	F1	3層	緑泥岩	長軸、単軸共刻み目
7	520g	凹石	E'1	3層	砂岩	凹石の一部
8	130g	分銅型石器	Aク	1層	安山岩	唯一の分銅型の石器
9	900g	脩製石器	F1	2層	安山岩	半欠
10	150g	脩製石器	トレ	1層	安山岩	完形先端部摩耗痕有り
11	350g	脩製石器	F1	2層	安山岩	三角形のおむすび状

第2表 各G出土石器一覧表



第31圖 各 G 出土石器

## 第6節 貝類遺体

本遺跡の調査によってえられた貝類は土壌袋で985袋であった。これを水洗い、選別、数量確認、貝種と同定を作業を進めた。

現場では、5mmメッシュの篩で選別し、下に落ちた土をさらに2mmメッシュの篩によって選別した。層位は上から堆積順に番号を付けた。また特別の場合は大きな番号を付した。

貝類の同定には標準原色図鑑全集3貝を用いた。その他麻生町於下貝塚発掘調査報告書。上高津貝塚A地点、発掘調査報告書。鳥浜貝塚（福井県教区委員会）を参考にした。

本貝塚については川崎 純徳氏の茨城における貝塚調査の現状、県史研究37があり、玉造町井上貝塚、藤井久保貝塚は浅い谷の谷頭部に小規模な貝殻の散布がいくつも見られる。貝塚規模は小さいが遺跡の領域は広大であり、時期的には中期から後期初頭におよんでいる。

### 1 種名の同定

本貝塚については筆者の知るかぎり特別な貝類はない。

今回の発掘調査によって出土した貝類を同定し、次に示した。腹足類網16種、堀足網2種、斧足網20種で合計30種である。二枚貝は左右の殻頂、殻長、重さの計測を行いそれぞれの数量を数えた。破損は個体としてかずを数えた。巻貝では殻軸の遺存しているものはすべて数に数えた。

## 井上貝塚出土貝類種名一覧

### 腹足網

Class GASTROPODA

#### ニシキウズガイ科

Family Frochidae

1. ダンベイキサゴ

*Umbonium* (*Suchium*) *giganteum* (Lesson, 1831)

2. イボキサゴ

*Umdonium* (*Suchium*) *moniliferum* (Lamarck)

#### リュウテン科

Family furdinidae

3. スガイ

*Lunella coronata coreensis* (Recluz, 1853)

#### カワニナ科

Family Pleuroceridae

4. カワニナ

*Semisulcospira lidertina* (Gould)

- ウミミナ科                      Family Potamididae
5. フトヘナタリガイ              *Cerithidea rhizophorarum* (A.Adams, 1855)
6. ヘナタリガイ                      *Cerithideopsis cingulata* (Gmelin, 1791)
7. カワアイガイ                      *Cerithideopsis djadjariensis* (Martin, 1899)
8. イボウミナ                      *Batillaria zonalis* (Brugiere, 1792)
9. ウミミナ                      *Batillaria multiformis* (Lischke, 1869)
10. ホソウミナ                      *Batillaris cumingii*
- タカラガイ科                      Family Cypræidae
11. ホシキヌタ                      *Ponda (Mystapionda) vitellus* (Linne, 1758)
- タマガイ科                      Family Naticidae
12. ツメタガイ                      *Glossaulax didyma* (Rodig, 1798)
- アクキガイ科                      Family Muricidae
13. アカニシ                      *Rapana venosa* (Valenciennes, 1846)
14. イボニシ                      *Reishia clavigera* (kuster, 1860)
- オリイレヨフバイ科              Family Nassariidae
15. アラムシロガイ              *Reticunassaa festiva* (Powys, 1835)
- 堀足綱                      Class SCAPHOPODA
- ツノガイ                      Family Dentaliidae
16. ヤカドツノガイ              *Antalis weinrauffi* (Dunker, 1877)
17. ツノガイ                      *Antalis weinrauffi* (Dunker, 1877)
- 斧足綱                      Class PELECYPODA
- フネガイ科                      Family Arcidae
18. アカガイ                      *Scapharca broughtonii* (Schrenck, 1867)
19. サルボウガイ                  *Scapharca subcrenata* (Lischke 1869)
20. ハイガイ                      *Tegillarca granosa* (Linnaeus, 1758)
- イガイ科                      Family Mytilidae
21. イガイ                      *Mytilus coruscus* (Gould, 1861)



- イタヤガイ科                      Family Pectinidae  
 22. イタヤガイ                      *Recten (Notovola) aldicans* (Schroter, 1802)
- ナミマガシワガイ科              Family Anomiidae  
 23. ナミマガシワガイ              *Anomia chinensis* (Philippi, 1849)
- イタボガキ科                      Family Ostreidae  
 24. マガキ                              *Crassostrea gigas* (Thznberg, 1793)
- イシガイ科                          Family Unionidae  
 25. イシガイ                              *Unio douglasiae* (Griffith & Pidgeno, 1834)
- シジミ科                              Family Cerdiculidae  
 26. ヤマトシジミ                      *Cordicula japonica* (Prime, 1864)
- マルスダレガイ科                  Family Veneridae  
 27. ハマグリ                              *Meretrix lusoria* (Roding, 1798)  
 28. カガミガイ                          *Desinordis (Phacosoma) japonicus* (Reece, 1850)  
 29. オキシジミ                          *Cyclina sinensis* (Gmelin, 1791)  
 30. アサリ                                  *Ruditapes philippinarum* (Adams & Reeve, 1850)
- バカガイ科                          Family Mactridae  
 31. バカガイ                              *Mactra chinensis* (Pcilippi, 1904)  
 32. シオフキガイ                      *Mactea veneriformi* (Reece, 1854)  
 33. ミルクイガイ                      *Tresus keenae* (Kuroda & Hade, 1952)
- アシガイ科                          Family Psammobiidae  
 34. ムラサキガイ                      *Hiatula diphos* (Linnaeus, 1771)
- ニッコウガイ科                      Family Tellinidae  
 35. ヒメシラトリガイ                  *Macoma incongrma* (V.Martens, 1865)
- マテガイ科                          Family Solenidae  
 36. マテガイ                              *Solen strctus* (Gould, 1861)

オオノガイ科

Family Myidae

37. オオノガイ

*Mya (Arenomya) renaria oonogai* (Makiyama, 1935)

本貝塚の出土貝類をその生態的特徴から検討すると、大部分が内湾性であるが、一部外洋性と淡水性ものを含んでいる。それぞれの群集に属する貝類とその生息環境の地理的位置を考えると、次表のようになる。貝塚出土貝類は、主として内湾中央部の砂底に生息する内湾砂底群集と内湾の湾奥部の砂泥質の干潟に生息する干潟群集に分類出来る。

本 塚 の 位 置	沿 岸 水			内 湾 水					淡 水
	湾 の 外 側			湾 口 部	湾 中 央 部		湾 奥 部	河 口	湖 沼・河 川
底 質	岩 礁	砂 泥 質	砂 質	岩 礁	砂 質	シルト～砂質	砂 泥 質	砂 泥 質	砂 泥 質
外海岩礁性群生 スガイ イボニシ イガイ	沿岸砂泥質群生 フノガイ ヤカドツノガイ イタヤガイ ムラサキガイ	沿岸砂底群集 ダンベイサゴ バカガイ	内湾岩礁性群生 スガイ イボニシ ナミマガシワガイ	内湾砂底群集 イボキサゴ ツメタガイ サルボウガイ ハマグリ カガミガイ アサリ シオフキガイ ミルウイガイ ヒメシラトリガイ マテガイ オオノガイ	内湾泥底群生 アカニシ アカガイ	干潟群集 ヘナタリガイ カワアイガイ イボウミナ ウミニナ ホソウミナ アラムシロ マガキ オキシジミ アサリ	感潮域群集 フヘナリガイ ヤマトシジミ	淡水域群生 ガワニナ イシガイ マシジミ	

第3表 貝の生息環境

## ○貝類

各区各層を通じ卓越するものはハマグリで80%を超える。以下各特徴を追って見たい。採集は春先から夏期にかけての時期が最も盛んに行つたと推察される。貝層堆積状態からからはかなり一時期に集中して採取されたと推察できる。

## ○二枚貝

サルボウは前述同様3層が最も多いが特にB1区、C1区が多く見られた。

オキシジミも3層を中心に見られ各グリットに差程の変化はない。

以上主体を占める貝種の分布傾向をみるとハマグリの出現割合が圧倒的多数を占めることから当時の自然環境の姿、砂浜の海岸が周辺に存在していた事が想定される。そして優先的に採集していたと考えられる。サルボウは同様な生育環境なのになんらかの差が存在すると推察される。採集しなかつたとは断定する資料はない。アカニシはややC1区にブロック状に見られた他はほぼ普遍的に散在して検出された。オキシジミも同様に検出されている。全体にカガミガイ、シオフキ、オオノガイ、ヒメシラトリガイが少なく特にシオフキは1%以下である。またカガミガイは0.01%以下であった。

## ○巻貝

巻貝は最も多いのがアカニシでB1区、C1区、D1区からは集中しブロック状に出現している。各グリットからは8%前後の出現率である。ウミナ、イボウミナ、ホソウミナと合わせても出現率はきわめて少ない。これらは千潟群集に属するが可食部分の食料価値が少ないか、他の地区に存在するのかわ定断は出来ない。しかし各ブロックの比率から少ないと推察されよう。湾口部に群集するイボニシは小型ながら各層に少ない割合であったが出現し検出されている。また同様にアラムシロも同様である。その他ダンベイキサゴ、スガイ、河川に生育するカワニナ等はトレンチ以外は、非常に少なくあくまでも副産物と推察される。

## ○小結

本貝塚の貝類は内湾の砂質性の内湾砂底群生のハマグリが当時の生活環境の中で特に採集に適し、また調理に適した貝種と推察出来る。また本貝塚周辺が前述の自然環境にあった事がハマグリ80%という高率を示すと推察出来る。そしてその他の数量の少なさを裏づけると推察する。貝塚は台地上に存在するため谷の入口部分は砂浜を形成し波静かな内湾域と推察される。また貝層状態から物流意識がかなり読みとれる。その他自然環境的には、若干の岩礁性の部分が周辺に存在していたと考えられる。ヒメシラトリガイは極少量ながら各層から出現している。また湾奥部の砂泥質の千潟群集のアラムシロ、イボウミナが2%以下であった事とオキシジミが出現率がやや多かったがこれらが可食性に余り適さず2枚貝で十分であったと推察される。マガキの出現率も同様である。

## 第7節 牙、貝製品

各Gからは、貝製品が出土している。以下貝製品の主なものについて述べる。

一番多量に検出されたものは貝刃でその数は200個体以上であった。これは一部図版で省略する。簡単に概要の述べておきたい。確認された貝はすべてハマグリで本遺跡では他の貝類は検出出来なかった。しかし調査したG出土の全部980袋をすべて水洗い選別すればまったく無いとは断言出来ない。それは水洗い、選別は全体の70%前後の720袋前後であるためである。ハマグリをC1区3層で分類すれば左殻18点、右殻12で刃部の加工は、主に貝殻の内側、内面からの押圧によって行われ剥離面は表面側の腹縁が多数で一部内側が弾み、使用中に欠失したと思われるものも見られる。刃部は腹縁の全体にわたるものと前背縁、後背縁に偏るものが認められた。

貝刃の素材のハマグリ殻長は50~80mm前後の個体が主なもので他のGで比較してもほぼ同様な結論が見られた。これらから見ると一般的に前述の大きさがさも利用しやすい、使用に適していたと理解されよう。また、側の利用頻度が多い事は、そこ側が的していたと理解される。概してこの種の貝を選別し加工していたと考えられる。

その他、[スレ貝]と称する殻頂部がかなり磨耗するものも少量見られたがこうした分析の目をもたなかった為その数量、磨耗度について観察が行わなかった。たしかに本貝塚でも観察出来た事は間違いのない事実である。その生産用具の存在について勉強不足であった、ことを肝に銘じておきたい。生産用具？。

### 1 貝製品 (第32図)

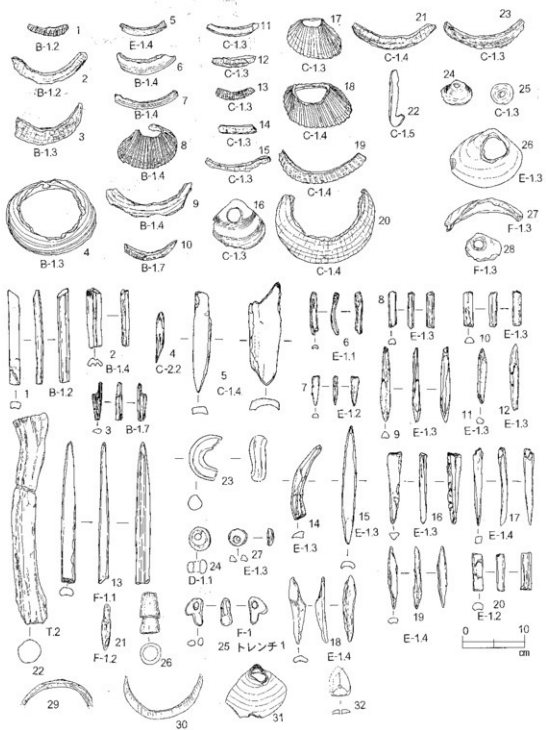
#### (1) 貝 輪

本貝塚は、ベンケイガイ製のもの16点、アカガイ製が8点が見られた。26はハマグリ製の貝輪？。完形品は4のみで僅かに加工を残すのみで他はすべて破損品、又は加工開始したばかりである。欠損品はほぼかなりよく加工され断面円形に近い。また8、17、18、26は未製品とすべきかどうか迷う所である。20も同様と推定される。その他はかなり加工が進んだ段階の欠失品3、9、20が見られた。29、30はほぼ円形に加工している。30のアカガイ製もかなり良く加工されている。

#### (2) 殻穿孔品

シオフキの殻頂部に穿孔している16、24が見られる。殻頂部穿孔品として取り上げた。これらは見るからに円形に人工的に加工している。28も可能性が高い。

25はダンベキキサゴの殻頂部を円形に穿孔、加工している。装飾品。その他8、17もその可能性がある。サルボウ。またやや変速的な穿孔部をもつ26、31が見られる。穿孔部は周辺に欠けが及び前述の用途とは基本的に性格が違ふと思われる。その他殻頂部全面に穿孔する



第32図 各G出土、貝輪、骨製品

ものが見られる図版の8、9、0、11、12、13で12、13はシオフキで上、殻頂部に見られる。性格の差？。

### (3) 牙 籤

イノシシの下顎犬歯を素材した製品で2点のみ検出された。32で片側、先端部を欠失する。籤の中心部に小孔が見られる。先端部は欠失不明であるが側縁は鋭利に加工され、裏面にエナメル質の一部が残るこの種のものは垂飾品と認識すべきであろう。その他2片が出土している。

### (4) 骨製品

#### ヤス状刺突具その他

大部分がシカの中手、中足骨を素材として利用している。完形品は少なく大部分は欠損品で14点図示した。確認出来たすべてを図示したが使用用途の特定出来ないものもある。ヤス状の個体でも円形状の3、7、9、10、11、13、20がみられる。その他四角状の17が見られる。その他三角形形態の16、18等がある。これらは刺突具として使用され、破損した為廃棄されたものと推察される。特別な付着物は認められなかった。

その他ヘラ状の1、2、5、16等が有り形態からヘラとして使用したと思われる。またモリ状の21と弭形骨製品の26が出土している。本例は茨城県でも類例がすくない。

土製品の円形の23、円筒状の24と27が見られる。使用用途は特定は出来ない。

石製品のペンダント状の25が検出された。円形部分に穿孔がある。メノウ製。またシカの角を切断途中の22が見られた。以上が出土検出された骨製品である。出土位置は図面下に番号、出土G、層位を記載した。

#### 小 結

貝輪はベンケイガイが16点、アカガイ8点が見られた。完形品は無くベンケイガイの未製品が1点B-1区3層から出土している。その他未製品又は破損、工作途中と推察されるものが見られた。また24、25のように装飾品と推察されるものも存在した。

殻穿孔品は、16、23、24が円形の穿孔部をもつシオフキで類例は少なく3点のみであり装飾品として使用された可能性がある。その他22はアカニシの貝柱を利用した釣り針？正体不明の製品でありかなり人工的な加工が施されている。

骨製品は総合的にまとまった物は無く狩猟具、魚労具としての未製品、完形品が見られた。11、12はイノシシの犬歯を用いる特殊な遺物である。14も同様かもしれない。狩猟具としての13、15、19はほぼ完形品に近い。いずれも小型。

装飾品と推察出来る25、26、32は材質がそれぞれに違い25はメノウ製。26はシカの角を加工、中空にし括れを中位に設けている。32はイノシシの牙で中央部に稜をもち無茎で稜の中央部に穿孔している。図示したほかトレンチ4層から一部が出土している。貝層の割には相対的に少なかった。ベンケイガイのRが1枚出土している。

	地区名		B1区3層				
	種名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他
腹	ダンベイキサゴ			4			大半欠け
	イボニシ			2	15		少ない
	カワニナ			9			やや多い
	フトヘナトリガイ			1			少ない
	ヘナタリガイ			2			少ない
	カワアイガイ						
足	イボウミニナ			5	3.4		やや大型
	ウミニナ			23	3.2	0.2~0.5	やや大型
	ホソウミニナ			2	2.1~3.2		少ない
網	ウミニカ科						
	ホシキヌタ			1	1cm		少ない
	ツメタガイ						
	アカニシ			947	2~2.0	0.2~200	やや多い
	アラムシロ			10	0.3~0.9	0.1~0.5	
	小計						
堀足網	ツノガイ			1			欠け
	小計						
斧	アカガイ						
	サルボウ	967	1,064	2,031	1.5~4.5	2~20	欠少量
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	マガキ			1		0.2	
	ヤマトシジミ	15	11	26	0.2~0.4	1~3	やや大型
足	ハマグリ	19,584	20,484	40,068	2.4~7.0	1~24	欠け多量
	カガミガイ	2	1	3	1~8	3~15	少量
	アサリ						
	バカガイ						
網	シオフキガイ	84	96	180	1.0~4.6		
	オキシジミ	558	435	993	0.5~6	0.5~16	欠け150
	ヒメシラトリガイ	2	1	3			欠け
	マデガイ						
	オオノガイ						
小計							
総計							

第4表 B-1区3層出土貝類

地区名		B1区4層					
	種名	左		個体総数	殻長 (cm)	重さ (g)	その他
腹  足  網	ダンベイキサゴ			2			欠け
	イボニシ						
	カワニナ						
	フトヘナトリガイ			1			
	ヘナタリガイ						
	カワアイガイ						
	イボウミニナ			3		1	少ない
	ウミニナ			2		0.2~0.5	
	ホソウミニナ			3		1	少量
	ウミニカ科						
	ホシキヌタ			2			少ない
	ツメタガイ						
	アカニシ			122			やや多い
	アラムシロ			1		0.5	
小計							
堀足網	ツノガイ			1			
	小計						
斧  足  網	アカガイ						
	サルボウ	62	77	139	0.5~3.0	0.5~8	
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	マガキ		2	2			欠け
	ヤマトシジミ	588	624	1,212	0.3~1	0.5~3	多量
	ハマグリ	4,945	4,880	9,825	2.4~7.6	1~20	欠多量
	カガミガイ		1	1		7	欠け
	アサリ						
	バカガイ						
	シオフキガイ	8	7	12	0.8~2.5	1~3	少量
	オキシジミ						
	ヒメシラトリガイ	1	3	14			欠け
マデガイ							
オオノガイ							
小計							
総計							

第5表 B-1区4層出土貝類



	地区名		B1区5層				
	種名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他
腹	ダンベイキサゴ			3		1.5	欠け多い
	イボニシ						
	カワニナ						
	フトヘナトリガイ						
	ヘナタリガイ						
足	カワアイイガイ						
	イボウミニナ						
	ウミニナ			10	2~3.0	0.2~0.5	欠け4
網	ホソウミニナ						
	ウミニカ科			1		0.2	
	ホシキヌタ			2	0	0.2	欠け
	ツメタガイ			2	2		
	アカニシ			4	1~13	10~160	
	アラムシロ						
掘足網	小計						
	ツノガイ			1			大半欠け
斧	小計						
	アカガイ						
	サルボウ	5	4	9	1~3.8	1~8	少量
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	マガキ						
	ヤマトシジミ	4	6	10	0.1~0.5	0.1~0.5	多量
	ハマグリ	897	856	1,753	2.4~7.1	1.0~20	欠け多量
	カガミガイ						
足	アサリ	1	1	2	0.5~3	2~4	極少量
	バカガイ						
	シオフキガイ						
	オキシジミ	208	210	418	0.5~16	0.5~16	欠け40
網	ヒメシラトリガイ						
	マテガイ						
	オオノガイ						
	小計						
	総計						

第6表 B-1区5層出土貝類

	地区名		C1区1層					
	種名	左	右	個体総数	殻長 (cm)	重さ (g)	その他	
腹	ダンベイキサゴ							
	イボニシ							
	カワニナ							
	フトヘナトリガイ							
	ヘナタリガイ							
	カワアイイガイ							
	足	イボウミニナ			5	1.5~2	1~1.5	極少量
		ウミニナ			4			欠け
		ホソウミニナ			2			欠け
	網	ウミニカ科						
ホシキヌタ								
ツメタガイ								
アカニシ				47	5~15	5~70	欠け12	
アラムシロ				5	0.5~1.0	0.5		
小計								
堀足網	ツノガイ							
	小計							
斧	アカガイ							
	サルボウ			7			欠け	
	ハイガイ							
	イタヤガイ							
	ナミマシワガイ							
	マガキ			2			欠け	
	ヤマトシジミ	1,320	480	2,638	0.1~0.5	0.1~0.5	欠け40	
足	ハマグリ	900	600	1,500	2.4~7.1	1~20	欠け18,984	
	カガミガイ							
	アサリ							
	バカガイ							
網	シオフキガイ		2	2	0.5~3	0.5~16	欠け2	
	オキシジミ	2	1	3	0.5~6	0.5~8	欠け5	
	ヒメシラトリガイ							
	マテガイ							
	オオノガイ							
	小計							
総計								

第7表 C-1区1層出土貝類

地区名		C1区2層					
種名		左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他
腹	ダンベイクサゴ			2			
	イボニシ						
	カワニナ						
	フトヘナトリガイ						
	ヘナタリガイ						
	カワアイガイ						
足	イボウミニナ			9	0.2~0.1	0.5~1.0	
	ウミニナ			5	1.5~2	0.1~0.3	欠け多し
	ホソウミニナ						
網	ウミニカ科						
	ホシキヌタ						
	ツメタガイ						
	アカニシ			2			欠け
	アラムシロ			19	1~1.5	1~2	
	小計						
堀足網	ツノガイ						
	小計						
斧	アカガイ	1	2				
	サルボウ			3	1~3.8	1~4	欠け5
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	マガキ						
足	ヤマトシジミ		2	140	0.	0.25~1	欠け138
	ハマグリ	224	243	467	2.4~7.1	1~20	欠け209
	カガミガイ						
	アサリ	5	6	11	1~3	0.5~3	欠け4
	バカガイ						
	シオフキガイ	15	3	18	2~3	0.2~3	少量
網	オキシジミ	10	8	18	0.5~6	0.5~12	欠け2
	ヒメシラトリガイ	174	86	260	2~3	0.1~2	欠け28
	マテガイ						
	オオノガイ						
	小計						
総計							

第8表 C-1区2層出土貝類

	地 区 名		C 1 区 3 層				
	種 名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重 さ(g)	そ の 他
腹	ダンベイキサゴ			18		1~3	少量
	イボニシ			5		2~3	
	カワニナ			17		0.5~1	
	ヤスタニン			10		0.1~5	極少量
	ヘナタリガイ						
	カワアイイガイ						
足	イボウミニナ			31	0.5~1.0	0.5~3	
	ウミニナ			74		0.2~2	
	ホソウミニナ			5		1	少量
	ウミニカ科			30		0.2~0.4	
網	ホシキヌタ						
	ツメタガイ						
	アカニシ			3,705	1~18	0.5~250	20~130が主
	アラムシロ			18		0.5~1	
	オカチョウジガイ			12		0.2~0.5	
堀足網	ツノガイ						
	小計						
斧	アカガイ						
	サルボウ	1,775	1,720	3,495	1~3.8	1~20	4~17が多量
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	マガキ			4		1~6	
	ヤマトシジミ	25	50	75	0.2~1	0.25~1	欠け37
	ハマグリ	9,040	9,311	18,351	2.0~7	0.5~24	欠け7,448
	カガミガイ						
	アサリ	2	5	7	1~3	0.5~3	欠け4
網	バカガイ						
	シオフキガイ	915	995	1,808	0.5~3	0.5~8	2~4が主
	オキシジミ	258	271	529	0.5~16	0.5~8	欠け30
	ヒメシラトリガイ	50	25	75	1.5~2.8	0.5~6	欠け2.5
	マテガイ					0.1~2	
	オオノガイ						
	小計						
総計							

第9表 C-1区3層出土貝類

	地 区 名	C1区4層					
		種 二 名	左	右	個体総数	殻 長 (cm)	重 さ (g)
腹 足	ダンベイキサゴ						
	イボニシ						
	カワニナ						
	フトヘナトリガイ						
	ヘナタリガイ						
	カワアイガイ						
	イボウミニナ						
	ウミニナ						
	ホソウミニナ						
	ウミニカ科						
網	ホシキヌタ						
	ツメタガイ						
	アカニシ			230	1~16	1.5~180	欠け108
	アラムシロ			20	0.3~0.5	0.1~0.5	
小 計							
堀 足 網	ツノガイ						
	小 計						
斧 足 網	アカガイ						
	サルボウ	68	60	178	1~3.8	1~5	欠け52
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	マ ガ キ						
	ヤマトシジミ	4	4	8	0.4~1.1	0.1~3	少量
	ハマグリ	137	124	3,503	2.1~7.1	0.5~20	欠け3,242
	カガミガイ		2	2	1.5~3	1~5	欠け5
	アサリ	198	198	414	0.5~0.4	0.5~6	欠け116
バカガイ	5	3	8	1~7	0.8~15	欠け15	
シオフキガイ	2	3	5	2~3	0.2~8	欠け2	
オキシジミ	15	12	27	0.5~4	0.5~18	欠け10	
ヒメシラトリガイ	10	3	13	0.5~2.8	0.1~2	欠20	
マテガイ							
オオノガイ							
小 計							
総 計							

第10表 C-1区4層 出土貝類

	地 区 名		C 1区5層					
	種 名	左	右	個体総数	殻 長 (cm)	重 さ (g)	そ の 他	
腹	ダンベイキサゴ							
	イボニシ							
	カワニナ							
	フトヘナトリガイ							
	ヘナタリガイ							
	カワアイイガイ							
	足	イボウミニナ						
		ウミニナ						
		ホソウミニナ						
		ウミニカ科						
網	ホシキヌタ							
	ツメタガイ							
	アカニシ			35	1~16	1.5~180	欠け20	
	アラムシロ			1	0.1~0.3	0.2		
	小 計							
堀足網	ツノガイ							
	小 計							
斧	アカガイ							
	サルボウ	105	100	205	1~4	1~20	欠け24	
	ハイガイ							
	イタヤガイ							
	ナミマシワガイ							
	マガキ							
	ヤマトシジミ							
	ハマグリ	532	521	5,453	0.8~22	1~24	欠け4,400	
	カガミガイ							
	アサリ	8	7	15	0.5~3	0.5~4	欠け10	
	バカガイ							
	シオフキガイ	2	4	9	2~3	0.2~8	欠け3	
	オキシジミ							
網	ヒメシラトリガイ	5	1	6	0.3~2.6	0.1~2	欠け10	
	マテガイ							
	オオノガイ							
	小 計							
	総 計			1/2				

第11表 C-1区5層出土貝類

	地区名	C2区1層					
		種名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)
腹	ダンベイキサゴ			2			欠け
	イボニシ			1			欠け
	カワニナ						
	フトヘナトリガイ						
	ヘナトリガイ						
	カワアイガイ						
足	イボウミニナ			3			
	ウミニナ			8		0.5~1.2	
	ホソウミニナ						
網	ウミニカ科						
	ホシキスタ						
	ツメタガイ			1			
	アカニシ			11	5~12		
	アラムシロ			1		0.5	
	小計						
掘足網	ツノガイ						
	小計						
斧	アカガイ						
	サルボウ	1	1	2		2~4	
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ	2	1	3			欠け
	マガキ						
足	ヤマトシジミ	433	386	819	0.5~1.5	0.2~1	欠け25
	ハマグリ	72	72	144	0.7~5	1~10	欠け50
	カガミガイ		1	3		7	
	アサリ						
	バカガイ						
網	シオフキガイ	3	3	6	1~3	0.2~0.8	欠け2
	オキシジミ	42	29	71	0.5~1.6	0.5~1.6	欠け10
	ヒメシラトリガイ		1	1		2	
	マテガイ						
	オオノガイ						
	小計						
	総計			1/2			

第12表 C-2区1層出土貝類

	地区名	C2区2層						
	種名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他	
腹	ダンベイキサゴ							
	イボニシ							
	カワニナ							
	フトヘナトリガイ							
	ヘナタリガイ							
	カワアイガイ							
	足	イボウミニナ						
		ウミニナ						
		ホソウミニナ						
		ウミニカ科						
	網	ホシキヌタ						
		ツメタガイ						
		アカニシ			204	0.2	10~200	欠け50
		アラムシロ						
堀足網	小計							
	ツノガイ							
釜	小計							
	アカガイ							
	サルボウ							
	ハイガイ							
	イタヤガイ							
	ナミマシワガイ							
	マガキ							
	ヤマトシジミ							
	足	ハマグリ	3,557	3,071	6,128	2.4~6	1~10	欠け140
		カガミガイ	3	3	6			欠け
		アサリ	5	5	10	0.5~1.5	1~3	
		バカガイ	2	3	5			大半欠け
		シオフキガイ	84	96	225	1~4.6	0.2~6	欠け45
		オキシジミ	135	140	175	0.5~6	0.5~8	大半欠け
網	ヒメシラトリガイ	4	4	8			欠け	
	マテガイ							
	オオノガイ							
	ムラサキガイ						大半欠け	
	総計							

第13表 C-2区2層出土貝類



地区名		C2区3層					
種名		左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他
服	ダンベイキサゴ			1			欠け
	イボニシ						
	カワニナ						
	フトヘナトリガイ						
	ヘナトリガイ						
	カワアイイガイ						
足	イボウミニナ			1			欠け
	ウミニナ			9		1	前後
	ホソウミニナ			4		1.5	
網	ヒメキセルガイ			2		0.5	
	ヒカリギセルガイ			2		0.5	
	ツメタガイ						
	アカニシ			254	1.7~15	10~200	欠け39
	アラムシロ			1		0.5	
	小計						
堀足網	ツノガイ			1			欠け
	小計						
斧	アカガイ						
	サルボウ	7	7	14			欠け
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	マガキ						
	ヤマトシジミ	9	1	37	0.5~1.2	0.2~1	
	ハマグリ	780	640	13,942	2.5~7.5	1~24	欠け11、580
	カガミガイ						
	アサリ	5	5				欠け
足	バカガイ						
	シオフキガイ	3	3				欠け
	オキシジミ		1				欠け
	ヒメシラトリガイ	7	8				欠け
	マテガイ						
	オオノガイ						
網	小計						
	総計		1/2	1/2			

第14表 C-2区3層出土貝類

		地区名		C2区4層					
		種名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他	
腹		ダンバイキサゴ							
		イボニシ							
		カワニナ							
		フトヘナトリガイ			1			欠け	
		ヘナタリガイ			1			欠け	
		カワアイガイ			2			欠け	
	足		イボウミニナ			3		2	欠け
			ウミニナ			18		1~2	
			ホソウミニナ			4		1	欠け 2
			ヒカルギセルガイ			2		0.5	欠け
	網		ホシキヌタ						
			ツメタガイ						
			アカニシ			3	2~4	3	極少量
			アラムシロ					0.1~0.5	
		小計							
堀足網		ツノガイ							
		小計							
斧		アカガイ							
		サルボウ	2	3	5			欠け	
		ハイガイ							
		イタヤガイ							
		ナミマシワガイ							
		マガキ			1			欠け	
		ヤマトシジミ	1	1	2			欠け	
		ハマグリ	9	8	165	2.4~31	0.5~3	欠け148	
		カガミガイ							
		アサリ							
足		バカガイ							
		シオフキガイ			2			欠け	
		オキシジミ	120	118	258	1~3	0.5~16	欠け20	
		ヒメシラトリガイ	10	11	21			欠け21	
		マテガイ							
		オオノガイ							
		小計							
網		小計							
		総計							

第15表 C-2区4層出土貝類

	地区名	E1区1層						
		種名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他
腹		ダンベイキサゴ						
		イボニシ						
		カワニナ						
		フトヘナトリガイ						
		ヘナタリガイ						
		カワアイガイ						
足		イボウミニナ						
		ウミニナ			9		1.0	欠け2
		ホソウミニナ						
網		ウミニカ科						
		ホシキヌタ			1		5	
		ツメタガイ						
		アカニシ			59		4~140	欠け20
		アラムシロ			2		1.0	
	小計							
堀足網		ツノガイ						
		小計						
斧		アカガイ						
		サルボウ	37	39	76	1~4.5	1~20	少量欠け5
		ハイガイ						
		イタヤガイ						
		ナミマシワガイ						
		マガキ						
		ヤマトシジミ	30	42	72	0.2~0.5	0.2~0.6	欠け20
足		ハマグリ	919	985	2,764	1~28	1~24	欠け860
		カガミガイ	1	2	3		5	欠け
		アサリ						
		バカガイ			27			欠け
網		シオフキガイ	307	346	751	1.5~5	1~7	欠け98
		オキシジミ	285	588	1,303	1.0~4.5	0.5~16	欠け430
		ヒメシラトリガイ						
		マテガイ						
		オオノガイ						
		小計						
	総計							

第16表 E-1区1層出土貝類

	地区名	E1区2層					
	種名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他
腹	ダンベイキサゴ			3			欠け
	イボニシ			1			欠け
	カワニナ						
	フトヘナトリガイ						
	ヘナタリガイ						
足	カワアイガイ						
	イボウミニナ						
	ウミニナ			9	1.5~2	1.0	少量
網	ホソウミニナ						
	ウミニカ科						少量
	ホシキヌタ						
	ツメタガイ						
	アカニシ			59	1~13	4~140	欠け2
	アラムシロ			2	1~1.2	1	少量
	小計						
掘足網	ツノガイ						
	小計						
斧	アカガイ						
	サルボウ	102	98	201	1.5~3.5	1~20	欠け2
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	マガキ						
	ヤマトシジミ	10	13	23	0.3~0.5	0.2~1	欠け15
	ハマグリ	228	187	2,342	1~7.5	0.1~24	欠け1,927
	カガミガイ	1	2	3	4	5	
	アサリ	3	8	862	2~3	1~5	欠け151
	バカガイ			55			欠け
足網	シオフキガイ	29	12	44	2~5	0.5~6	欠け9
	オキシジミ	115	120	2	1~4.8	0.5~16	欠け50
	ヒメシラトリガイ	67	38	193	2~4	1~1.0	欠け88
	マテガイ						
	オオノガイ						
	小計						
	総計		1/2	1/2			

第17表 E-1区2層出土貝類

	地区名		E1区3層				
	種名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他
腹	ダンベイキサゴ			19		1~5	欠け
	イボニシ			19	2~3	0.5~2	やや多量
	カワニナ			34	1.5~2.5	1~5	やや多量
	フトヘナトリガイ			15	1.3~3.1	1~6	
	ヘナタリガイ			24	2~3	1~4	
	カワアイガイ			5	0.2~0.3	0.8	
足	イボウミニナ			71	0.2~0.3	0.2~0.8	やや多量
	ウミニナ			121	0.3~0.4	0.5~60	多量
	ホソウミニナ			32	0.1~0.2	0.2~0.7	やや多量
網	ウミニカ科						
	ホシキヌタ						
	ツメタガイ			2			
	アカニシ			23	5~15	10~60	少量欠
	アラムシロ			10	0.5~1.2	0.5~0.6	
ヤマニシ			5			陸産	
掘足網	ツノガイ			1			欠け
	小計						
斧	アカガイ						
	サルボウ	934	1,020	2,096	2~4.5	1~24	欠142
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	カノコガイ			2			
	ヤマトシジミ	7	9	16	0.5~2	0.25~2	欠け10
	ハマグリ	4,037	5,000	39,468	1.5~6	1~24	欠け30,484
	カガミガイ	5	1	8	4~8	5~18	欠け2
	アサリ	150	139	1,062	1~5	1~10	欠け774
足	バカガイ	30	39	612	4.2~6.9	2~10	欠け543
	シオフキガイ	400	357	2,513	1~4	0.5~7	欠け1,756
	オキシジミ	127	109	236	1~6	1~10	
	ヒメシラトリガイ	49	34	243	1.5~3	0.2~3	欠け160
	ヌノメガイ	1		1			欠け
	オオノガイ						
網	小計						
	総計						

70% 70%

第18表 E1区3層出土貝類

	地 区 名		E1区4層				
	種 名	左	右	個体総数	殻 長 (cm)	重 さ (g)	そ の 他
腹 足	ダンベイキサゴ			5			欠け
	イボニシ			1	2~3	5	
	カワニナ			2	1~2	1~3	
	フトヘナトリガイ			2	2~3	1~2	
	ヘナタリガイ			10	1~2.5	1~3	
	カワアイイガイ						
	イボウミニナ			3	1~3.1	1~2	
	ウミニナ			2	2~3	1~2	
	ホソウミニナ			12	1~1.5	1~1.5	
	ウミニカ科						
	ホシキヌタ						
	ツメタガイ						
	アカニシ			18		4~80	欠け2
アラムシロ							
小 計							
堀足網	ツノガイ						
	小 計						
斧 足 網	アカガイ						
	サルボウ	32	38	70	2~3	1~20	
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	オキシジミ	23	21	44	3~5	0.5~6	
	ヤマトシジミ						
	ハマグリ	164	112	376	2~5	0.5~15	欠け100
	カガミガイ						
	アサリ	25	35	68	1~5	1~8	欠け18
	バカガイ						
	シオフキガイ	5	4	9	2~3	2~3	
	ミルクイガイ						
ヒメシラトリガイ							
マテガイ							
オオノガイ	1	2	3			欠け	
小 計							
総 計							

第19表 E1区4層出土貝類

	地区名		F1区1層				
	種名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他
瓶 足 網	ダンベイキサゴ						
	イボニシ						
	カワニナ						
	フトヘナトリガイ						
	ヘナトリガイ						
	カワアイガイ						
	イボウミニナ						
	ウミニナ						
	ホソウミニナ						
	ウミニカ科						
	ホシキヌタ						
	ツメタガイ						
	アカニシ						
	アラムシロ						
小計			2				
堀足網	ツノガイ			1			欠け
	小計			4			欠け2
斧 足 網	アカガイ						
	サルボウ	171	127	444			欠け146
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	オキシジミ	215	11	111	2~4	0.5~4	欠け80
	ヤマトシジミ	3	3	6		1~5	
	ハマグリ	61	37	364	1~5	1~5	欠け266
	カガミガイ						
	アサリ	4	2	6		2~5	
	バカガイ	249	246				欠け495
	シオフキガイ	6	4	10	2~3	1~4	
	オキシジミ						
	ヒメシラトリガイ	7	12	19	1.5~3	0.2~2	
マデガイ							
オオノガイ			3			欠け	
小計							
総計							

第20表 F1区1層出土貝類

	地 区 名		F 1 区 2 層					
	種 名	左	右	個体総数	殻 長 (cm)	重 さ (g)	そ の 他	
腹	ダンベイキサゴ						大半欠	
	イボニシ				15		少ない	
	カワニナ			1			やや多い	
	フトヘナトリガイ						少ない	
	ヘナタリガイ						少ない	
	カワアイイガイ							
	足	イボウミニナ			2	3.4		やや大型
		ウミニナ			1	3.2		やや大型
		ホソウミニナ			1	2.1-3.2		少ない
		ウミニカ科						
	網	ホシキヌタ				1cm		少ない
		ツメタガイ						
		アカニシ			5	2~2.0	0.2~200	やや多い
		アラムシロ			24	0.3~0.9	0.1~0.5	
小 計								
掘足網	ツノガイ			1			欠け	
	小 計							
斧	アカガイ							
	サルボウ	818	942	1,906	1.5~4.5	2~20	欠け少量	
	ハイガイ	6	6	12				
	イタヤガイ							
	ナミマシワガイ							
	マガキ					0.2		
	ヤマトシジミ	3	3	6		1~3	やや大型	
	ハマグリ	1,018	1,199	15,437	2.4~7.0	1~24	多量	
	カガミガイ	12	7	19		3~15	少量	
	アサリ	2	4					
	ヒメカサリ	800	740	1,540				
	シオフキガイ	77	73	150	1.0~4.6			
	ミルクイガイ							
網	ヒメシラトリガイ	1	4	71				
	ムラサキガイ			1				
	ヒタチマイマイ			1				
	小 計							
	総 計		1/2	1/2				

第21表 F 1 区 2 層 出土貝類



	地区名		F1区3層				
	種名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他
腹	ダンベイキサゴ			2			欠け
	イボニシ			5			欠け
	カワニナ			1			欠け
足	フトヘナトリガイ						
	ヘナタリガイ						
	カワアイイガイ						
	イボウミニナ						
網	ウミニナ			4			欠け
	ホソウミニナ						
	ウミニカ科						
	ホシキヌタ						
	ツメタガイ						
	アカニシ			5	4.5~20	15~150	欠け20
堀足網	アラムシロ			3	0.5~1.0	0.2~1	
	小計						
芥	ツノガイ						
	小計						
	アカガイ						
	サルボウ	55	68	123	5~15	2~20	
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	マガキ						
	ヤマトシジミ	10	12	22	0.8~1.2	0.4~2	
	ハマグリ	353	362	715	3~4	1~16	多量
足	カガミガイ	4		4	4~6	8~14	片側のみ
	アサリ	10	12	22	1~4	0.5~6	欠け3
	バカガイ			13			欠け
	シオフキガイ	18	20	38	0.5~2.6	0.2~6	欠け10
網	ミルクイガイ						
	ヒメシラトリガイ	4	1	5	0.5~3	0.5~1	欠け40
	マテガイ						
	オオノガイ						
	小計						
	総計						

第22表 F1区3層出土貝類

	地 区 名	トレンチ1層						
		種 名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重 さ(g)	そ の 他
腹	ダンバイキサゴ							
	イボニシ							
	カワニナ							
	フトヘナトリガイ							
	ヘナタリガイ							
	カワアイガイ							
	足	イボウミニナ						
		ウミニナ						
		ホソウミニナ						
	網	ウミニカ科						
		ホシキヌタ						
		ツメタガイ						
アカニシ								
アラムシロ								
小 計								
堀足網	ツノガイ							
	小 計							
斧	アカガイ							
	サルボウ							
	ハイガイ							
	イタヤガイ							
	ナミマシワガイ							
	マ ガ キ							
	ヤマトシジミ							
足	ハマグリ	91	561	1,471	0.2~4	0.5~120	欠け198	
	カガミガイ	1	2	3			欠け3	
	アサリ	4	3	7	0.5~2.5	0.2~10		
	バカガイ						欠け1	
	シオフキガイ	118	82	200	1~4	0.2~8	欠け13	
網	ミルクイガイ							
	ヒメシラトリガイ	2	2	4			欠け2	
	マデガイ							
	オオノガイ							
	小 計							
	総 計							

第23表 トレンチ1層出土貝類

	地区名		トレンチ2層				
	種名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重さ(g)	その他
腹	ダンベイキサゴ			13	3×2	3×2	欠け2
	イボニシ			9	2.5~3.7	0.4~0.9	欠け1
	カワニナ			8	2.5~3.6	0.5~1	
	フトヘナトリガイ			3	1.5~3	0.5~0.8	
	ヘナタリガイ						
足	カワアイガイ						
	イボウミニナ			11	3~4	0.5~1	欠け1
	ウミニナ			8	2~3.5	0.4~0.8	欠け1
	ホソウミニナ			19	0.5~2	0.5~0.8	欠け4
網	ウミニカ科						
	ホシキヌタ			1			
	ツメタガイ						
	アカニシ			202		2~160	欠け74
	アラムシロ			88	0.3~1.0	0.08~0.5	
小計							
瓶足網							
	ツノガイ			1			欠け1
小計							
斧	アカガイ						
	サルボウ	311	326	637	1~5	1~260	欠け49
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイ						
	マガキ			4	2~4	0.8~1.5	
	ヤマトシジミ	1	2				欠け7
足	ハマグリ	8,534	8,240	16,774	0.2~3.5	1~120	欠け1,830
	カガミガイ	17	9	26	1.8~4.5	2~8	欠けR10、L8
	アサリ						欠けR、L
	バカガイ	13	8	21	3~7	0.5~15	欠けR9、L8
	シオフキガイ	109	120	229	1~4	1~8	欠けR36、L28
網	オキシジミ	35	36	71	0.5~6	0.5~12	欠け20
	ヒメシラトリガイ	68	22	90	1~4.5	0.5~4	欠けR28、L10
	マデガイ						
	オオノガイ						
	小計						
総計							

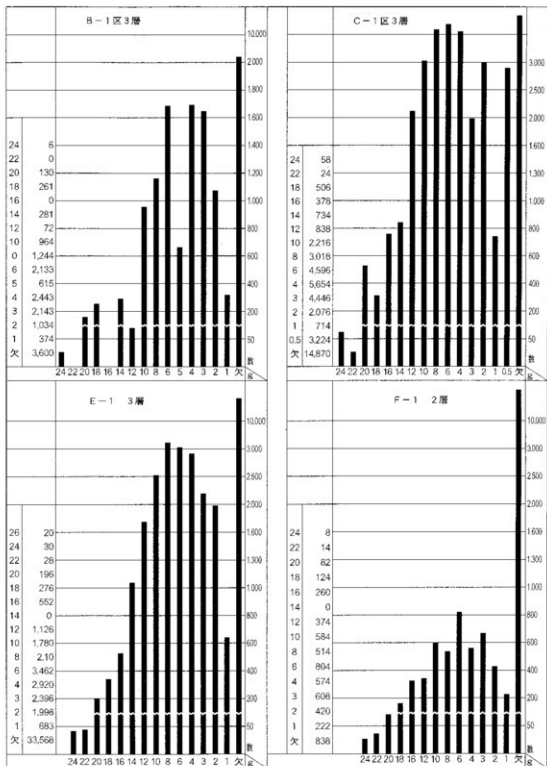
第24表 トレンチ2層出土貝類

	地 区 名	トレンチ3層							
		種 名	左	右	個体総数	殻長(cm)	重 さ(g)	そ の 他	
腹		ダンベイキサゴ							
		イボニシ							
		カワニナ			1			欠け	
		フトヘナトリガイ			2			欠け	
		ヘナタリガイ			1			欠け	
		カワアイガイ							
	足		イボウミニナ			2			欠け1
			ウミニナ			5			欠け
			ホソウミニナ			2			欠け3
	網		ウミニカ科						
		ホシキヌタ							
		ツメタガイ							
		アカニシ			15	5.5~24	1.5~200	欠け15	
		アラムシロ			10	0.5~1.2	0.1~1	欠け1	
	小 計								
掘足網		ツノガイ							
		小 計							
斧		アカガイ							
		サルボウ	10	15	25	2~4	1.2~4	欠け10	
		ハイガイ							
		イタヤガイ							
		ナミマシワガイ							
		マガキ		1				欠け	
		オキシジミ	4	6	10	0.8~1.5	0.4~2		
		ハマグリ	12	8	20	1~2	0.5~6	欠け1	
		カガミガイ			1			欠け1	
		アサリ	4	5	9	1~3	0.5~6	欠け1	
足		バカガイ			14			欠け14	
		シオフキガイ	15	9	24	0.5~4.2	0.2~4	欠け88	
		ミルクイガイ							
		ヒメシラトリガイ	53	13	66	0.7~4.0	0.5~1	欠け129	
		マデガイ						欠け92	
		オオノガイ							
		小 計							
		総 計							

第25表 トレンチ3層出土貝類

	地区名		トレンチ4層				
	種名	左	右	個体総数	殻長 (cm)	重さ (g)	その他
腹	ダンバイキサゴ			3			欠け
	イボニシ			16	0.8~3.2	0.2~4	欠け5
	カワニナ			20	1~3	0.5~4	欠け6
	フトヘナトリガイ						
	ヘナトリガイ						
足	カフアイガイ						
	イボウミニナ			8			欠け
	ウミニナ			50			欠け
	ホソウミニナ						
網	ウミニカ科						
	ホシキヌタ						欠け
	ツメタガイ						
	アカニシ			40	7.5~25	40~200	
	アラムシロ			63	0.5~1.5	0.1~1	欠け2
	小計						
堀足網	ツノガイ			3			欠け
	小計						
斧	アカガイ						
	サルボウ	210	240	450	1.2~4	1~4	欠け25
	ハイガイ						
	イタヤガイ						
	ナミマシワガイモドキ	3	1	8	1~4	0.0~3.5	欠け4
	マガキ						
	ヤマトシジミ	35	27	62	0.3~0.7	0.3~2	欠け5
足	ハマグリ	5,765	6,125	11,890	0.5~8	0.5~14	欠け2,105
	カガミガイ	5	6	11	0.5~4	1~16	欠け3
	アサリ	44	45	99	1.2~4	0.3~6	欠け39
	バカガイ	5	10	15	2~8	1~8	欠け40
	シオフキガイ	420	376	796	1~4	0.4~8	欠け508
	オキシジミ	530	512	1,042	0.8~8	0.8~14	欠け197
	ヒメシラトリガイ	145	25	173	0.6~0.5	0.2~0.8	欠け311
網	マテガイ		4				欠け
	オオノガイ	4	7	11	2.5~7	1~6	欠け70
	小計						
	総計						

第26表 トレンチ4層出土貝類



第27表 ハマグリ殻高と重さの分布傾向

その他3ヶ所の地点貝塚が北側、西側に存在するが明確な時期は不明である。

## 1 微小貝類

本貝塚においては選別、水洗いの方法により微小貝類の採集を逃さないように配慮し調査、整理作業を進めた。その結果かなりの貝種が確認された。

それらは西側の地区で層位によるちがいは無くほぼ不変的に少量づつ各グリットから検出された。ここで言う微小貝類とはmm単位の個体で、陸産、海産種を含む。これらの分析がなされてこそ当時の古環境の復元が可能であろう。ただその能力があるかないかは分析者の力に係っている。筆者はその力不足の為貝類の表の作成を資料として提示しておきたい。

特別には特にならないがヒメギセルがやや量的に卓越している。

### 微小貝類一覧

#### 腹足綱 Class GASTROPODA

##### 前鳃亜綱 Subclass PROSOBRANCHIA

##### 中腹足目 Order Mesogastropoda

1. ヒダリマキゴマガイ *Palaina (Cylindropalaina) pusilla* (MARTENS, 1877)

##### 有肺亜綱 Subclass PULMONATA

##### 基眼目 Order Stylommatophora

1. スジケシガイ *Carychium noduliferum* REINHARDT, 1877

##### 柄眼目 Order Stylommatophora

1. キセルガイモドキ *Mirus rijnianus* (KOBELT, 1875)
2. ヒカリギセル *Zapytychopsis buschi* (KUSTER, 1853)
3. ヒメギセル *Vitriphaedusa microkeas* (MOELLENDORFF, 1882)
4. オオタキコギセル *Euphaedya digonoptiyx* (BOETTGER, 1878)
5. オカチョウジガイ *Allopeas pyrgula* (PILSBRY et HIRASE, 1904)
6. ホソオカチョウジガイ *Allopeas pyrgula* (SCAMACKER et BOETTGER, 1891)
7. ヒメコハクガイ *Hawaii minuscula* (BINNEY, 1840)
8. オオコハクガイ *Zonitoides yessoensis* (REINHERDT, 1877)
9. キビガイ *Gastrodontella stenogyra* (A. ADAMS, 1868)
10. ヒメベッコウガイ *Discoconulus uaga* (REINHAEDELT, 1877)
11. ナミヒメベッコウ *Yamatochlamys uaga* (PILSBRY et HIRASE, 1904)
12. ニッポンマイマイ *Satuma japonica* (PFEIFFER, 1847)
13. ヒタチマイマイ *Euhadra buandtii* (KOBELT, 1875)
14. ヒダリマキマイマイ *Eujadra quaesita* (DESHAYES, 1840)

(出土微小海陸産貝類種名一覧)

Family Neritidae

1 カノコガイ *Clithon faba* (SOWERBY, 1936)

タモトガイ科 Family pyrenidae

2 ムギガイ *Mitrella bicincta* (GOULD, 1860)

3 ヤマトニシ (幼貝) *Cyclophorus herklotsi* Martens(juvenile)

4 ミジンヤマトニシ *Nakadaella micron*(Pilsbry)

5 ヒダリマキゴマガイ *Palaina*(*Cylindroparaina*)*pusilla*(Martens)

6 イブキゴマガイ *Diplommatina*(*Sinica*)*labiosa* Martens

7 スジケンガイ *Carychium noduliferum* Reinhardt

本貝塚では良く観察、調査をしたと考えたがさほど収集されなかった。分析の目がなかったのかも知れない。前述の貝類はほぼ2～3層が主体で採集されている。これは上下の層では腐食が進み採集できなかったのかもしれない。しかし本貝類の主体は前述の層位に存在した可能性が高い。

下部のグリットではヒメギセルが大部分で他にヒタチマイマイが少量採集されその他は皆無に近い。これらは貝層の埋積の相違、時代、自然環境の差が推察されハマグリが70%前後の堆積でいずれも純貝層なので採集が出来なかったと理解する。

微小貝類は堆積の最後一番新しい層のトレンチ2層、3層が最も多く採集された。この層は、貝塚確認の為のものですべての層を調査すればかなりの貝類が採集されたと考える。全体的に数は10個体前後である。



## 結 語

本貝塚の調査は前述のとおり町道拡幅と直線化をはかるため一部貝塚の掘削を行う為該当する部分のみ事前に調査を実施した。したがって道路下部分はコンクリート打ち込みのため破壊される地区。小面積の割には多量の貝が検出されその整理に相当の時間をついやした。また魚骨の整理、小動物の整理が一部しか進んでいないがこれらを残し一応年度の区切りとした。残った遺物は平成11年度に整理、刊行予定である。

このたびの発掘では僅かに44mであったが出土した貝は土囊986袋と多量に達した。そのため当初の予算では賸いきれず補正予算を頂き整理に当った。そのため雑駁な点が多々見受けられるとおもわれる。これも筆者の力量不足と断ってまめとしたい。

本貝塚は北側斜面の最奥部に位置し形成を見た。現霞ヶ浦からは直線にして1km程で解折谷中程に占地する。貝塚の規模は前日のとうり半径60m幅25m程の半円状形態で上端は標高30m、下端は25m程でかなりの斜面に形成されている。貝塚はその他3ヶ所地点貝塚が北側、西側に存在するが明確な時期は不明である。貝塚の主体は調査した本A地点と理解する。

本貝塚においてはハマグリがどの貝層においても多数を占め純貝層で上、下に混貝層が薄く堆積しているのが通常のパターンである。攪乱の入らない東側はこの層序であった。西側では一部破砕層が見られたがすべてではない。

貝は30種前後採集された。その他微小貝類が認められこれらは本貝塚の新しい時期？『道路の為断定は出来ない』の所産か、ハマグリは数量そのものの差は差程観られないが個体の大きさにかなりの差が見られ、自然環境の変化が読み取れ、若干の土の混入が見られグリット部分の純貝層とは差が明瞭に認められた。差は西、東の貝塚の終り部分のみである。

獣骨はかなり採集されたが現在判別出来るものにはイノシシ、シカが大半を占めている。その他小動物、鳥類が見られるがイノシシ、シカを除き分類作業が時間内に終わらなかった。『魚、鳥類、小動物についてはH10年度に予定している』魚類はクロダイ、マダイ、スズキ、ボラ、ウナギ、フグ、ヒラメ、アジ、エイ等が採集されている。ヘビも見られた。

貝の堆積から本貝塚を形成した人々の中には一時期貝の『加工場的』様相を呈した時期が貝層から後期中葉から後半に存在したと理解される。この時期が本貝塚の最も盛んな時期と推察される。

動物の骨を利用したヤス、土器片錘の出上は少なくこれらの道具を利用し採集を主体とするには余りにも数量が低い。これらからは海岸での採集が主体的な生活スタイルと推察するにはやや無理がある。もちろん漁撈と狩撈が生活の糧であることは前提である。

石器類は少なく、完形品は皆無に近く欠失品も少ない。これらの状態から本貝塚住人『井上人』の生活スタイルを想定して見ると海岸での採集、漁撈を主体とし時にはハマグリ加工を行い、魚の捕獲、シカ、イノシシを捕り木の実を採集し生活していたと考えられる。

これらは出土土器から縄文時代中期後半から始まり後期末迄続く、霞ヶ浦が波静な内湾を呈していた穏やかな自然環境の中での生活は現代生活と比べるとまさに雲泥の「差」があろう。

最後に貝塚を調査するには万全の時間と予算の裏づけが必要である事が大切であることを痛感した。

文責 汀 安衛

参考文献	於下貝塚	麻生町教育委員会	1992	加藤晋平他
	上高津貝塚A地点	茨城県上浦市教育委員会	1994	慶応大学
	鳥浜貝塚	福井県教育委員会	1979	
	〃	〃	1981	
	学術研究第15号	早稲田大学教育学部	1966	西村 正衛
	茨城県史研究37	茨城における貝塚研究の現状	昭和55年	川崎 純徳
	貝	標準原色図鑑	昭和46年	渡部 忠重
				小菅 貞夫

## 抄 録

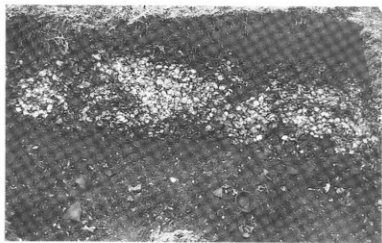
フリガナ	イノウエカイヅカハクツツチヨウサホウコクシヨ
書名	井上貝塚発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	汀 安 衛
編集機関	鹿行文化研究所／〒311-2211 茨城県鹿嶋市青塚690
発行機関	玉造町教育委員会、玉造町遺跡調査会／〒311-3512茨城県行方郡玉造町甲404
発行年月日	西暦1998年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
イノウエカイヅカ 井上貝塚	イバウキケンナメダ 茨城県行方 郡玉造町 大字井上2122	08255	40 1534	36° 26° 43°	140° 26° 43°	19970929 19971027	106.75m <sup>2</sup>	町遺拡幅 に伴う 調査

所収遺跡名	種別	主な遺構	主な遺構	特記事項	特記事項
井上貝塚	貝塚	縄文後期	貝層	貝類、骨類 魚骨類、石器類	想像以上の大規模な貝塚で貝層は良好、骨類は少ない。



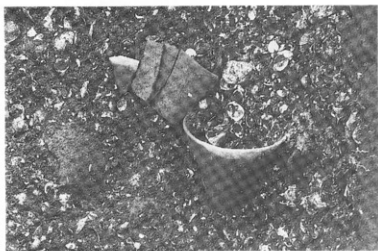
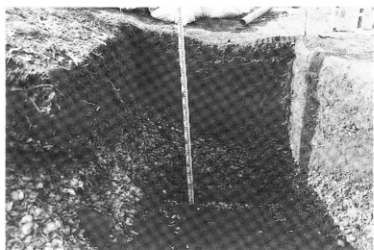
PL-1 下方から見た調査区(上) 道路から見下ろした調査区(下)



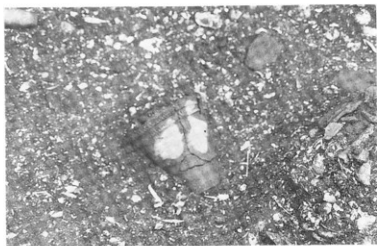
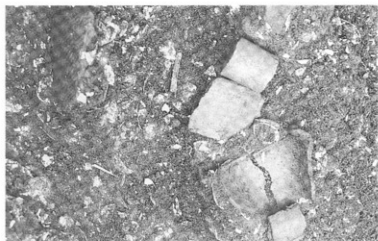
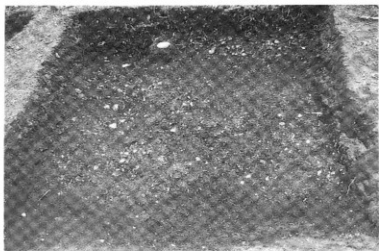
PL-2 C-1区2層上面(上) C-1区貝層断面(中) 西側から見た貝層(下)



PL-3 C-1区3層土器、アカニシ(上) 同シカ骨(中左) C-1区と道路(中右)  
C-1区攪乱層(下左) C-1区4層土器と骨出土状態(下右)

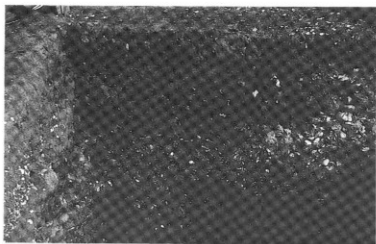


PL-4 D-1区(上) E-1区3層土器と貝層(中) 同5層(下)

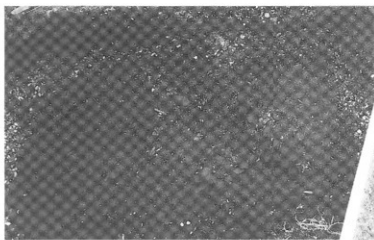
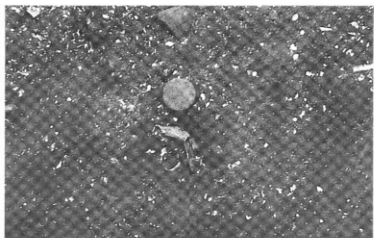


PL-5 F-1区1層(上)同西側から(中)同土器出土状態(下)

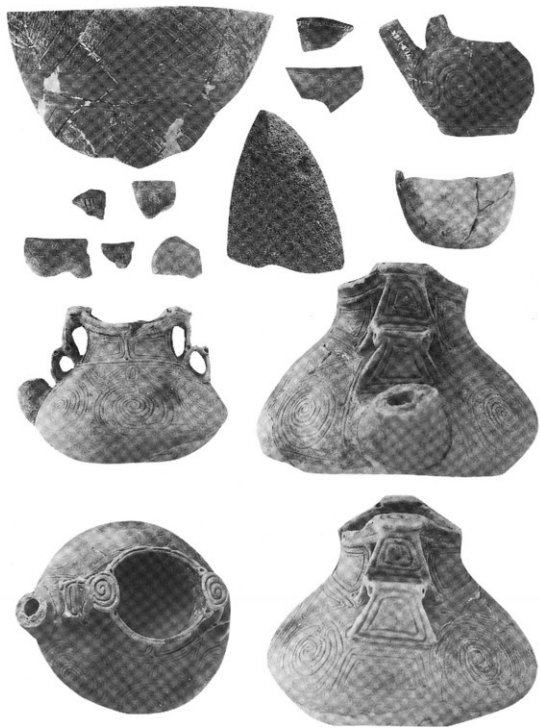




PL-6 F-1区具層(右上方) F-1区具層(中) 同シカ角、骨製品(下)



PL-7 F-1区5層土器と骨(上) F-1区貝層と土器(中) C-2区貝層調査(下)  
同貝層と下端、遺物出土状態(右)



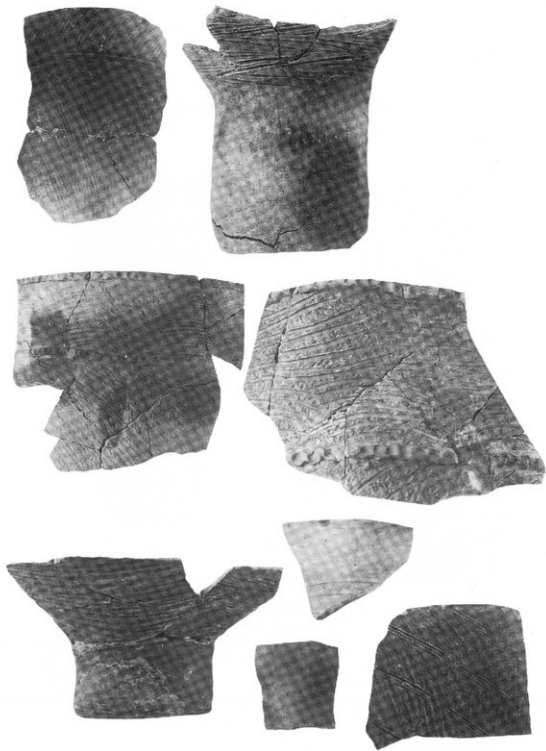
PL-8 B-1区、3、4層出土遺物(上) 注口土器E-1区3層(下)



PL-9 C-1区3層出土土器



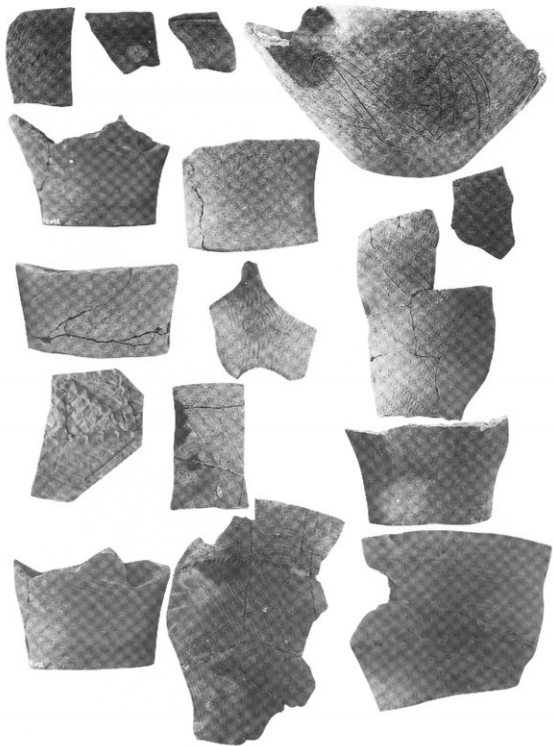
PL-10 C-1区3層出土土器



PL-11 C-1区3層出土土器



PL-12 C-1区3層出土土器



PL-13 C-1区3層、C-1区4層、C-1区5層、C-1区6層出土土器





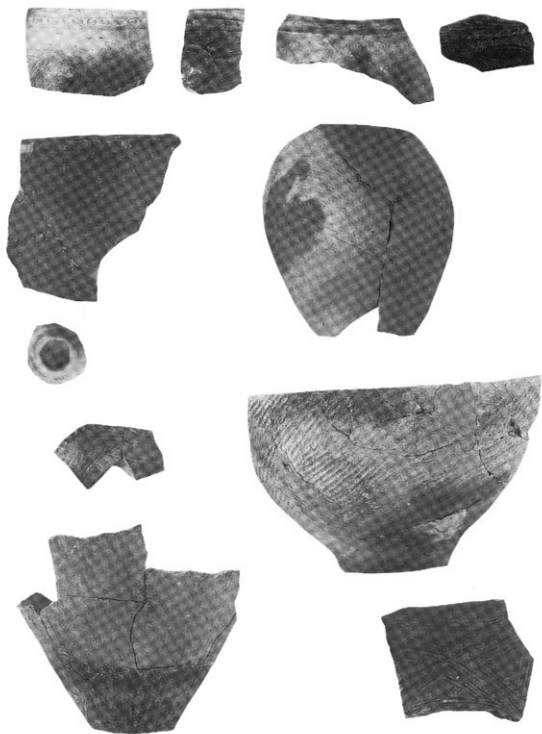
PL-14 D-1区1~2層出土瓦、D-1区3層出土土器



PL-15 D-1区3層出土土器



PL-16 D-1区3層、4層出土土器



PL-17 E-1区1層、2層、3層(C-1、E-1)



PL-18 E-1区3層(D-1)



PL-19 E-1区3層、E-1層、2層、3層、F-1区2層

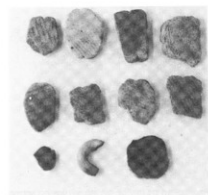
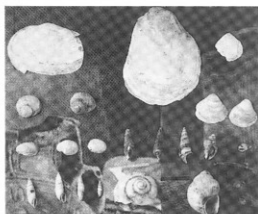
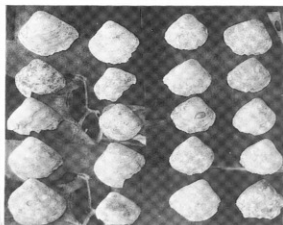
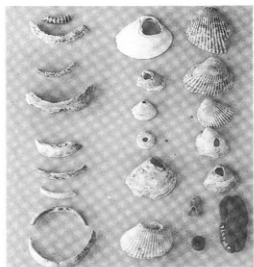


PL-20 トレンチ区1層2層

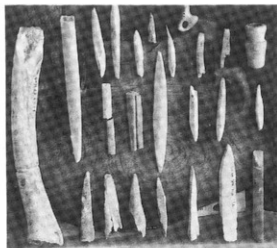
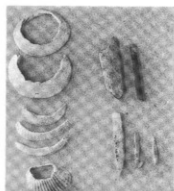


PL-21 D-1区1層、F-1区1層、各G出土土器

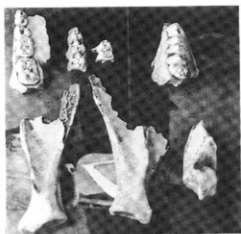




PL-22 貝輪、貝製品、牙齦、貝刃(上)貝類(中)土器片錘(下)



PL-23 イノシシ、貝輪、骨製品、歯、シカ角等



PL-24 シカ骨、角、イノシシ骨

---

---

**井上貝塚発掘調査報告書**

印刷 平成10年3月31日

発行 平成10年3月31日

編集 鹿行文化研究所

発行 玉造町遺跡調査会  
玉造町教育委員会

印刷所 (株)さんゆう社印刷

---

---